小學唱歌集

初編

文部省音樂取調掛

編纂

唱歌集

初編

小學校師範學校中學校教科用書

緒言

凡ソ教育ノ要ハ德育智育體育ノ三者ニ在リ而シテ小學ニ在リテハ最モ宜ク德性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ今夫レ音樂ノ物タル性情ニ本ツキ人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ故ニ古ヨリ明君賢相特ニ之ヲ振興シ之ヲ家國ニ播サント欲セシ者和漢歐米ノ史冊歴々徴スヘシ曩ニ我政府ノ始テ學制ヲ頒ツニ方リテヤ已ニ唱歌ヲ普通學科中ニ

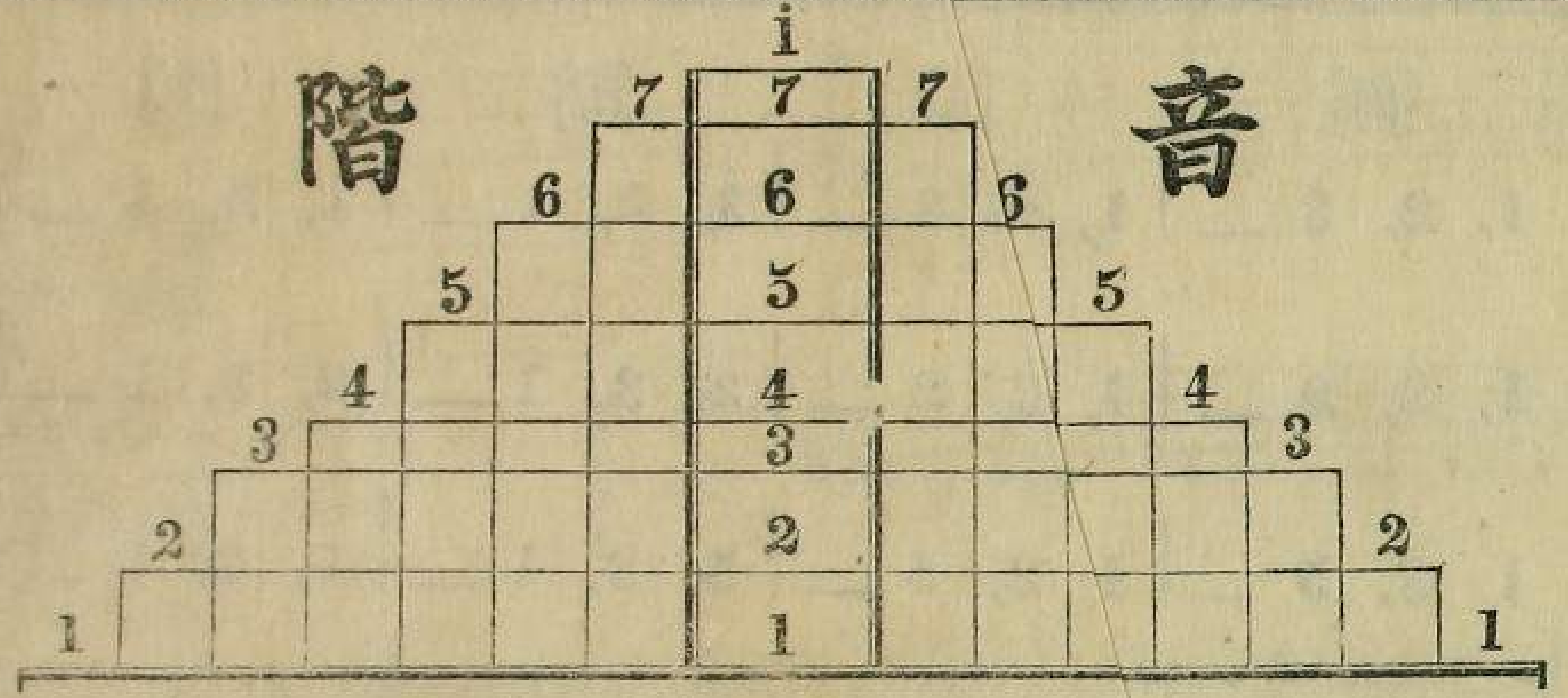
掲ケテ一般必須ノ科タルヲ示シ其教則綱領ヲ定ムルニ至テハ亦之ヲ小學各等科ニ加ヘテ其必ス學ハサル可ラサルヲ示セリ然シテ之ヲ學校ニ實施スルニ及ンテハ必ス歌曲其當ヲ得聲音其正ヲ得テ能ク教育ノ真理ニ悖ラサルヲ要スレハ此レ其事タル固ヨリ容易ニ擧行スヘキニ非ス我省此ニ見ル所アリ客年特ニ音樂取調掛ヲ設ケ充ルニ本邦ノ學士音樂家等ヲ以テシ且ツ遠ク米國有名ノ音樂教師ヲ聘シ百方討究論悉シ本邦固有ノ音律ニ基ツキ彼長ヲ取リ我短ヲ補ニ以テ我學校ニ適用スヘキ者ヲ撰定セシム爾後諸員ノ協力ニ頼リ稍ヤク數曲ヲ得之ヲ東京師範學校及東京女子師範學校生徒并兩校附屬小學生徒ニ施シテ其適否ヲ試ミ更ニ取捨選擇シ得ル所ニ隨テ之ヲ録シ遂ニ歌曲數十ノ多キニ至レリ爰ニ之ヲ剞劂ニ付シ名ケテ小學唱歌集ト云是レ固ヨ

リ草創ニ屬スルヲ以テ或ハ未タ完全ナラサル者アラント雖モ庶幾クハ亦我教育進歩ノ一助ニ資スルニ足ラント云爾

明治十四年十一月

音樂取調掛長
伊澤修二謹識

音階

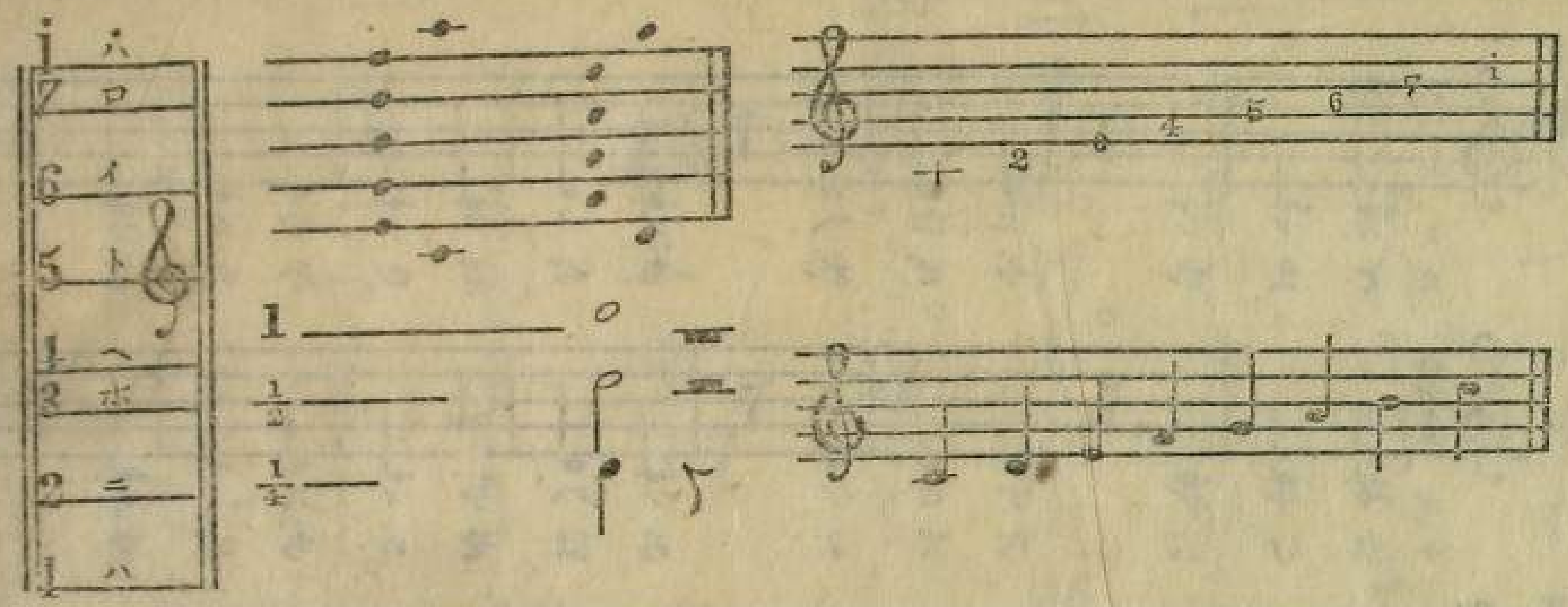


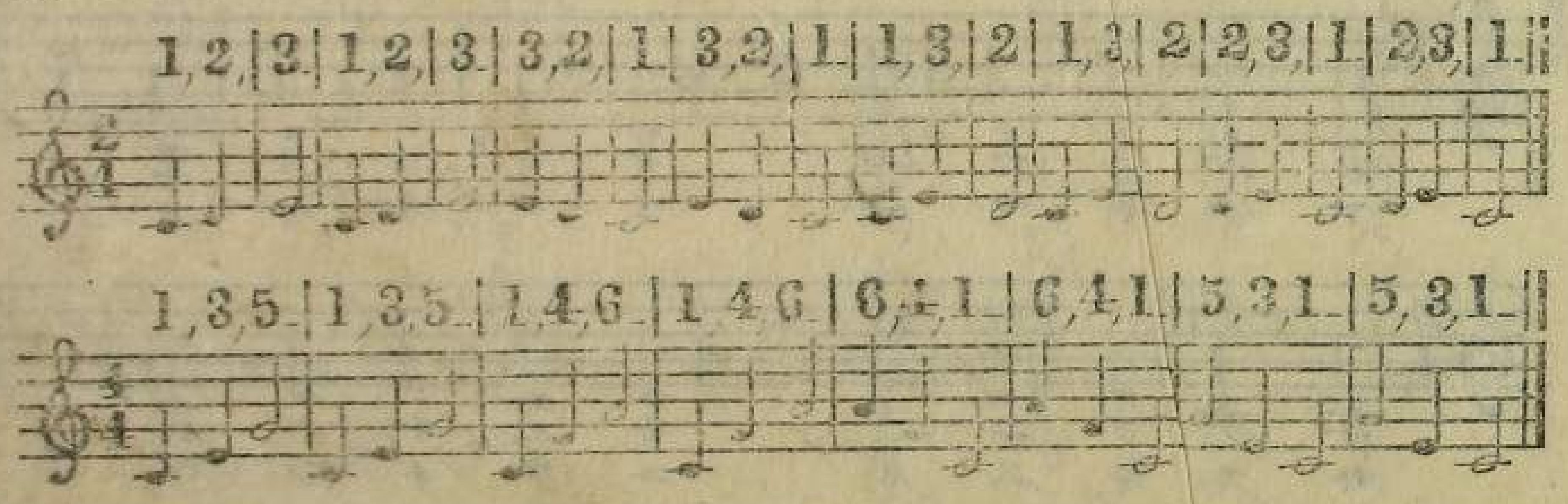
音階練習

[一] 1,2_ 2,1_ [二] 1,2,3_ 3,2,1_ [三] 1,2,3,4_ 4,3,2,1_

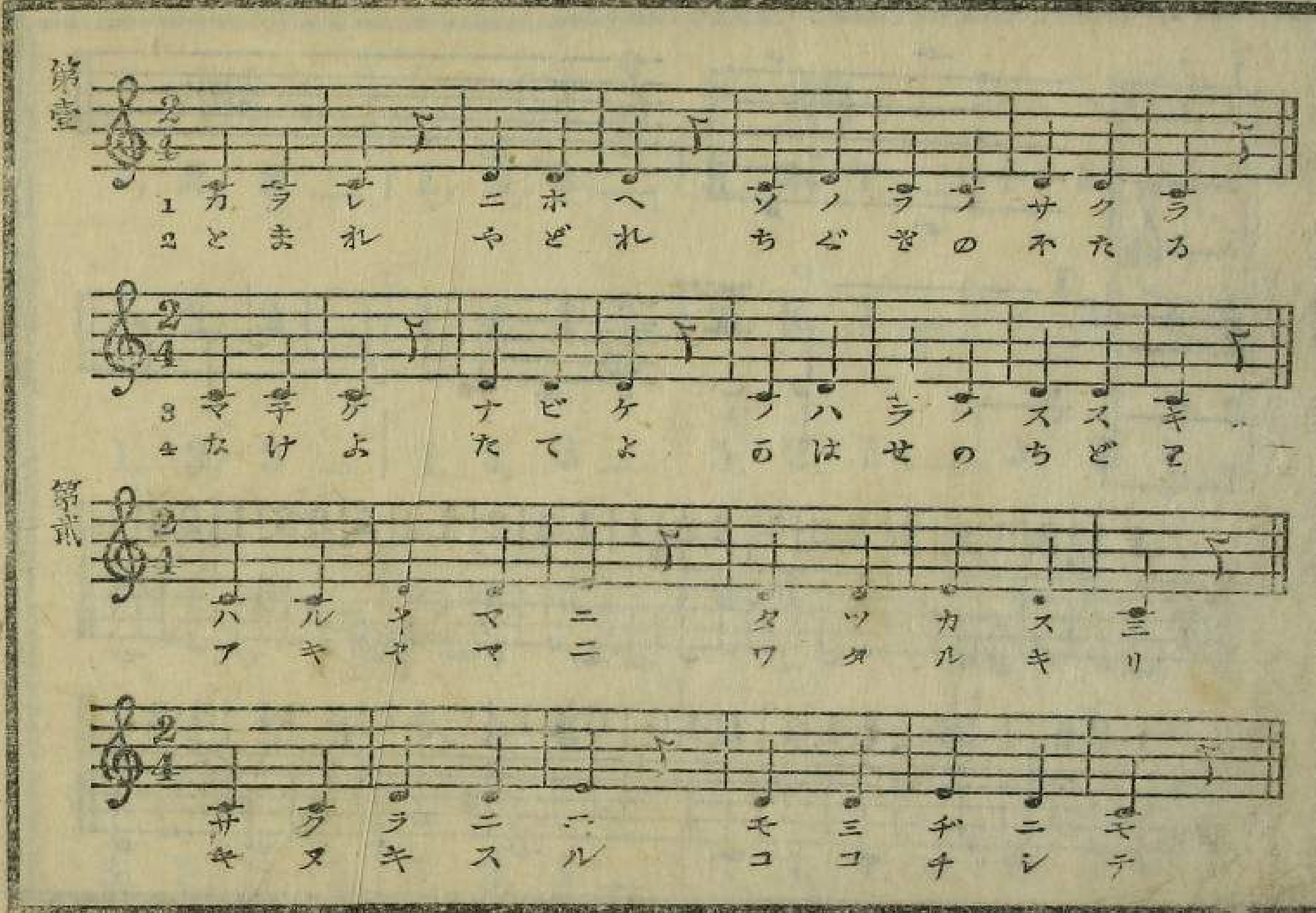
[四] 1,2,3,4,5_ 5,4,3,2,1_ [五] 1,2,3,4,5,6_ 6,5,4,3,2,1_

[六] 1,2,3,4,5,6,7,i_ i,7,6,5,4,3,2,1_





師	生	師	生
1, 2, 3 —	1, 2, 3 —	3, 2, 1 —	3, 2, 1 —
1, 3, 2 —	1, 3, 2 —	2, 3, 1 —	2, 3, 1 —
1, 3, 5 —	1, 3, 5 —	5, 3, 1 —	5, 3, 1 —
1, 4, 6 —	1, 4, 6 —	6, 4, 1 —	6, 4, 1 —
師		生	
1, 3, 5, 5,	1, 3, 5 —	1, 3, 5, 5,	1, 3, 5 —
5, 3, 1, 3,	5, 3, 1 —	5, 3, 1, 3,	5, 3, 1 —

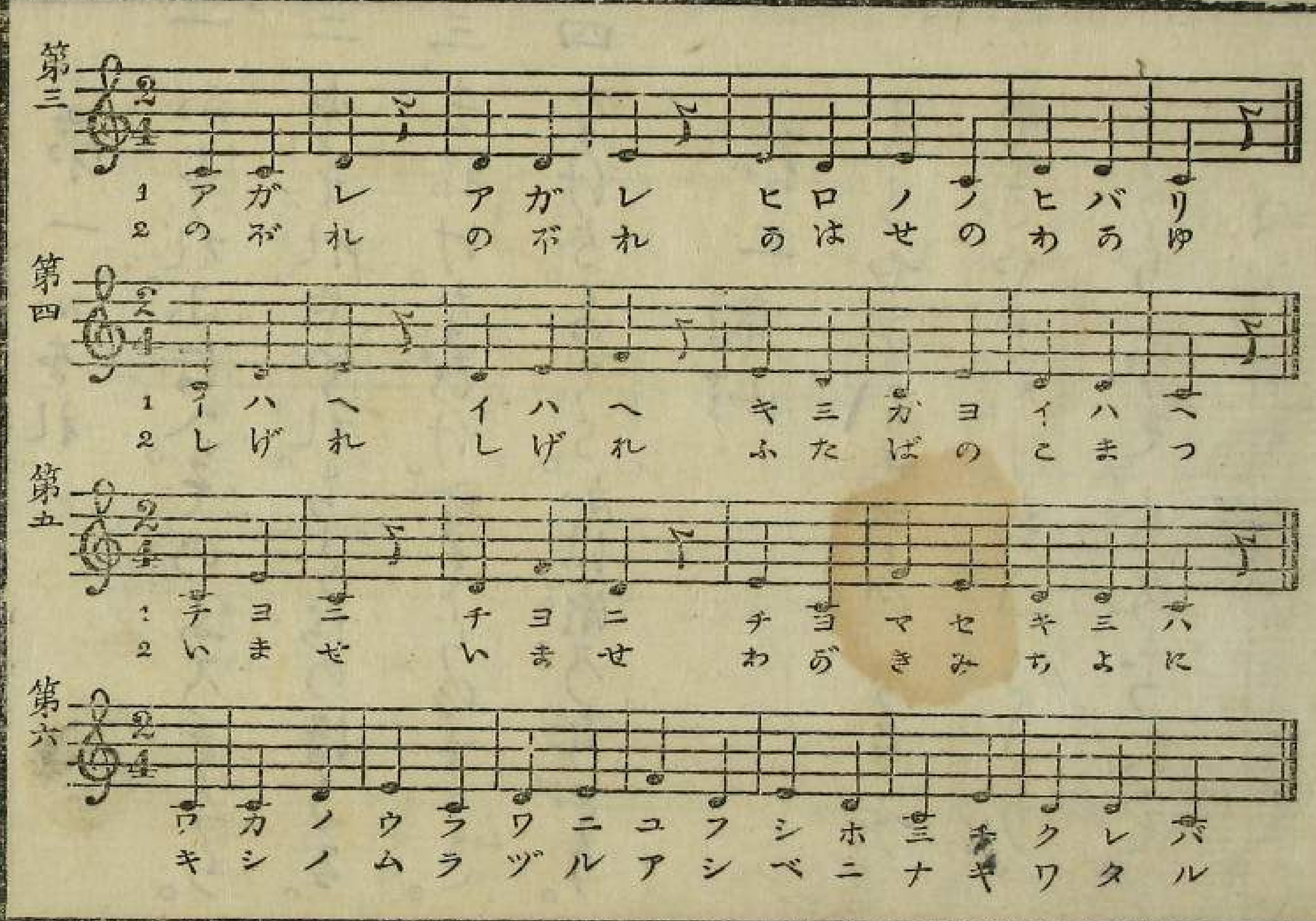


第一 かをれ

一 かをれ。にほへ。そのふざくら。
二 とまれ。やどれ。ちぐさのねぐら。
三 まねけ。なびけ。野はらのすゝき。
四 なけよ。たてよ。かは瀬(せ)乃ちどり。

第二 春山(はるやま)

はるやまに。たつかすみ。
あきやまに。わたるきり。
はなにぞ。もみぢにぞ。
きぬきする。こゝちして。



第三 あがれ

一 あがれ〱〱。廣野のひばり。

二 のぼれ〱〱。川瀬の若鮎。

第四 いはへ

一 いはへ〱〱。きみの代は亀。

二 ことほげ〱〱。ふたばの小松。

第五 千代

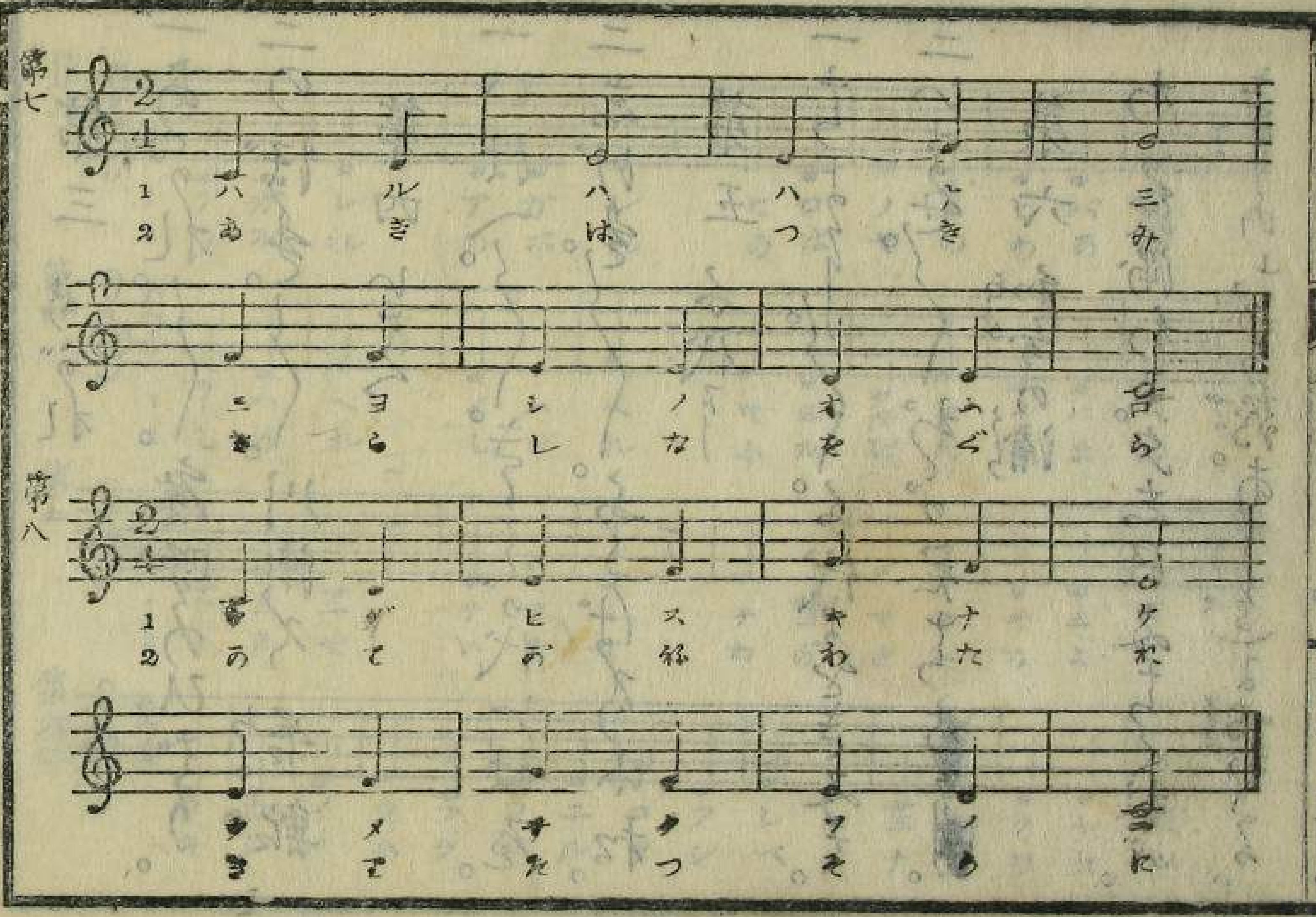
一 ちよ〱〱。千代ませきみが。

二 いませ〱。わがきみちよに。

第六 和歌の浦

わかの浦わに。夕志ほみちくれバ。

きしのかたなみあしべさして鶴なきわたる。



第七 春は花見

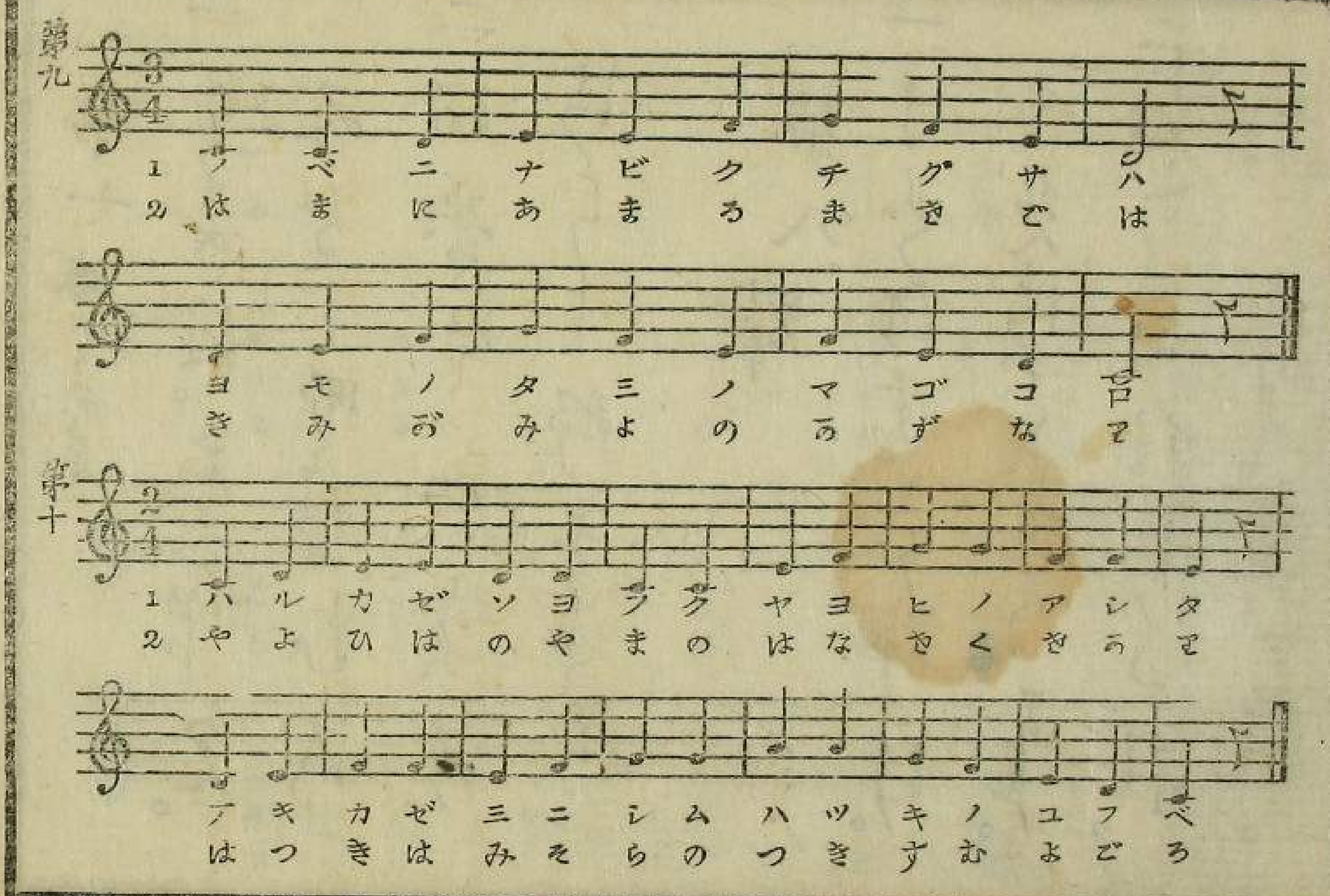
一 はるは。はな見。みよし野。おむろ。

二 あきは。月見。さらしな。をぐら。

第八 鶯(うぐひす)

一 うぐひす。きなけ。うめさく。その里。

二 かはづの聲。わかれ。霧(きり)たつ川。ながれり。



第九　野邊(のべ)に

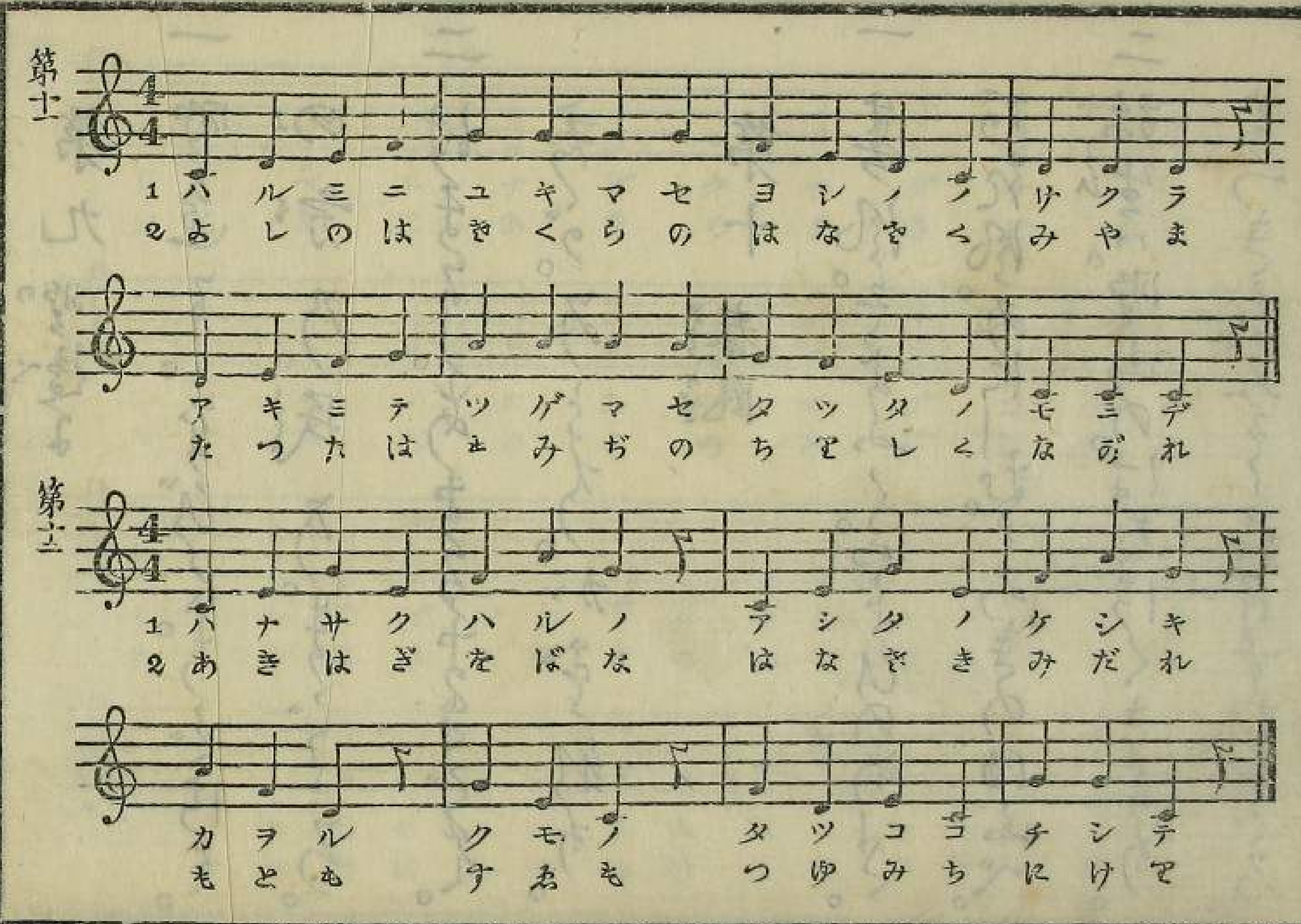
一 野邊には。なびくちぐさは。
四方(よも)の民(たみ)の。まごころ。

二 はまにあまる。まさごは。
きみがみよの。かずなる。

第十　春風(はるかぜ)

一 春風。そよふく。やよひのあした。
あき風。みにしむ。はつきのゆふべ。

二 彌生(やよひ)は。野山の。はなさくさかり。
はつきは。みそらの月すむ夜(よ)ごろ。



第十一 桜紅葉（さくらもみぢ）

一 はるみに。ゆかませ。吉野（よしの）の桜。あきみて。つげませ。龍田（たつた）のもみぢ。

二 よし野は。はなさくみやま。たつた。紅葉（もみぢ）のちりしくながれ。

第十二 花さく春

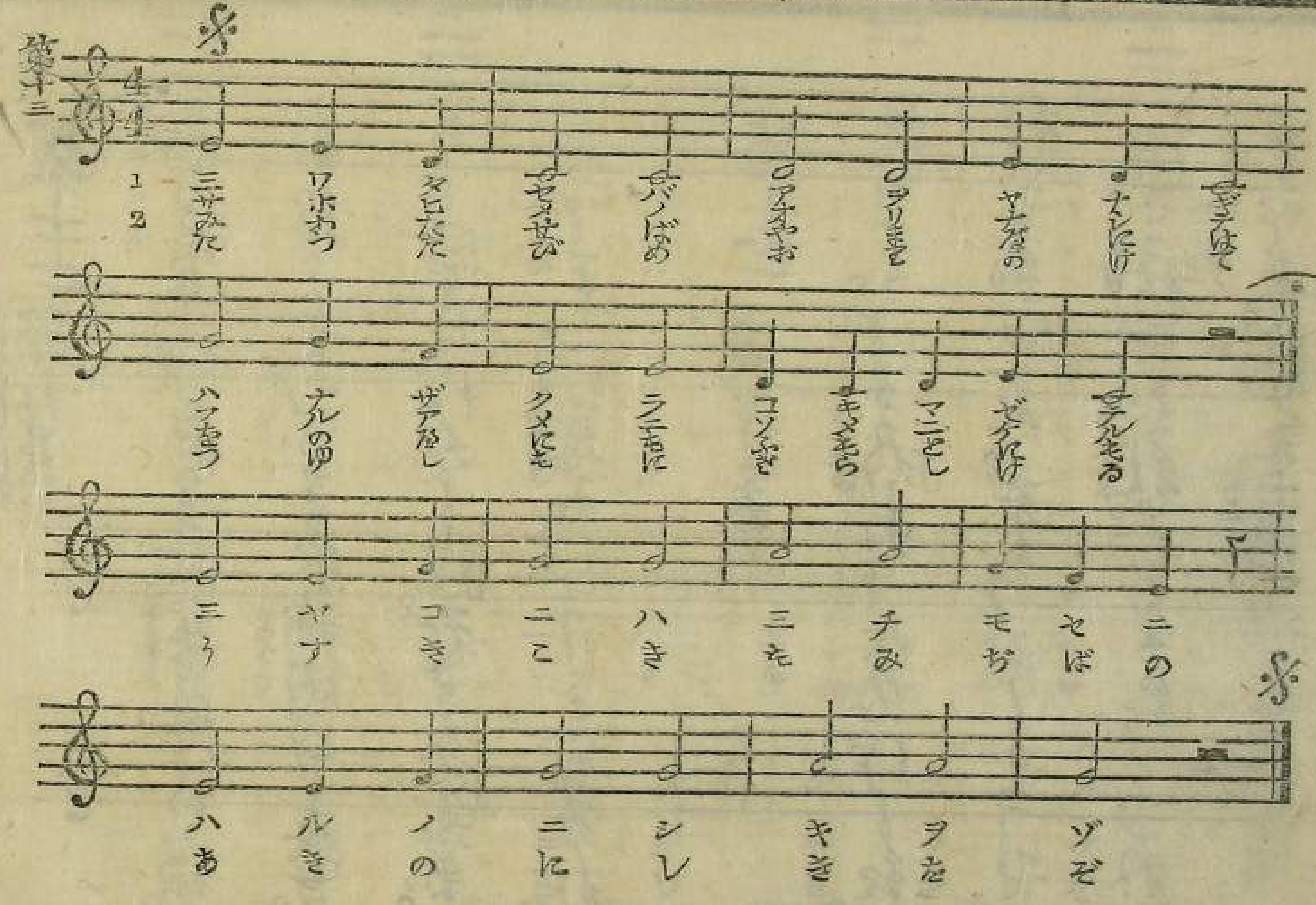
一 花さくはるの。あしたのけしき。かをる。雲の。たつここちして。

二 あき萩（はぎ）をばな。さきみだれ。もとも。末も露（つゆ）みちにけり。

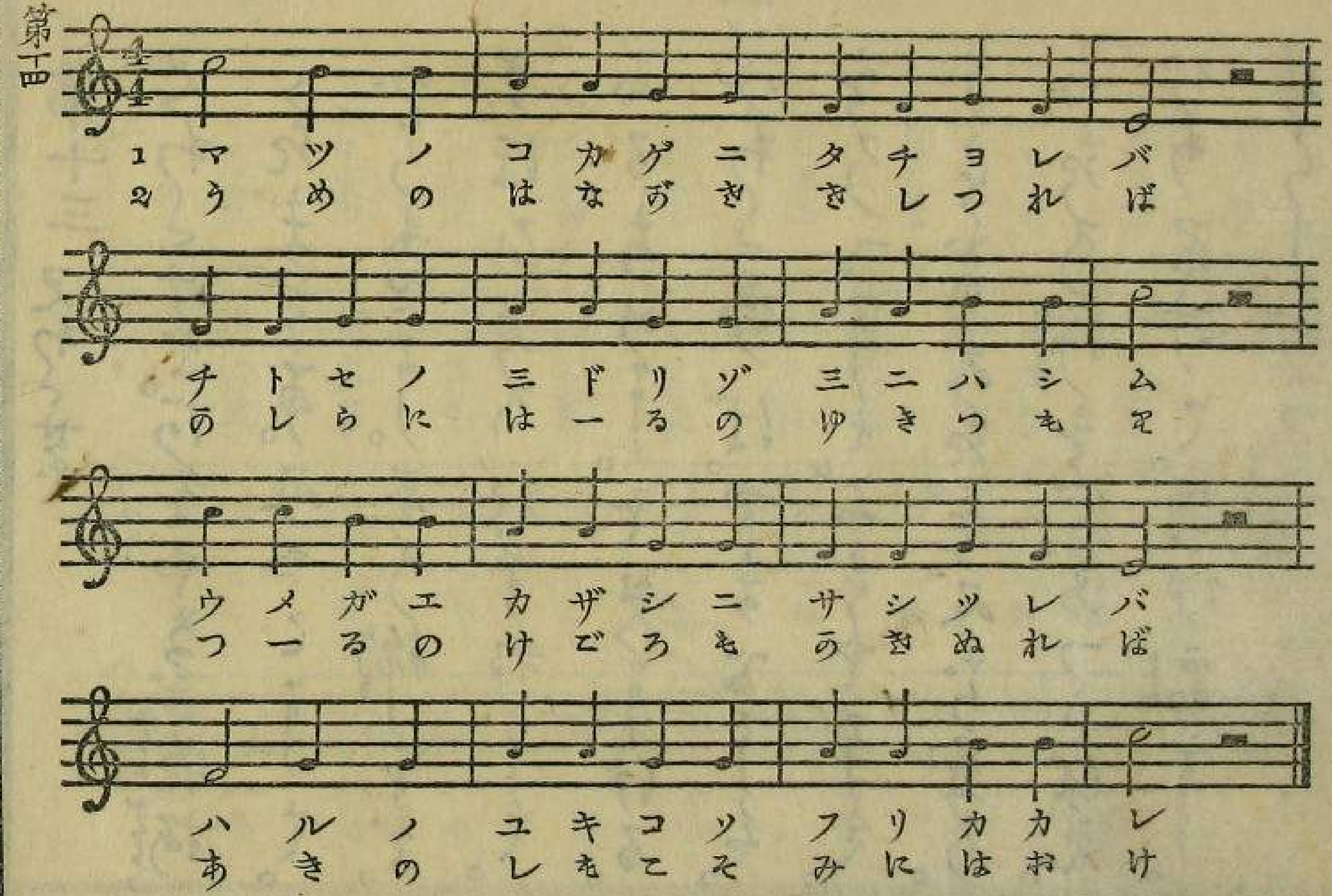
第十三 見わたせば

一 見わたせば。あをやなぎ。花桜(はなざくら)。
こきまぜて。みやこには。
みちもせに。春の錦(にしき)をぞ。
さほひめの。おりなして。
ふるあめに。そめにける。

二 みわたせば。やまべには。
をのへにも。ふもとにも。
うすきこき。もみぢ葉(ば)の。
あきの錦(にしき)をぞ。たつたひめ。
おりかけて。つゆ霜(しも)に。
さらしける。



第十四



第十四 松の木蔭

一 松の木かげに立よれば。ちとせのみどりぞ身にはしむ。梅がえかざしにさしつれば。春の雪こそふりかゝれ。

一 うめ花ぞのきさしつれば。かしらに春のゆきぞつもる。鶴のけごろもかさぬれば。あきの霜こそ身にはおけ。

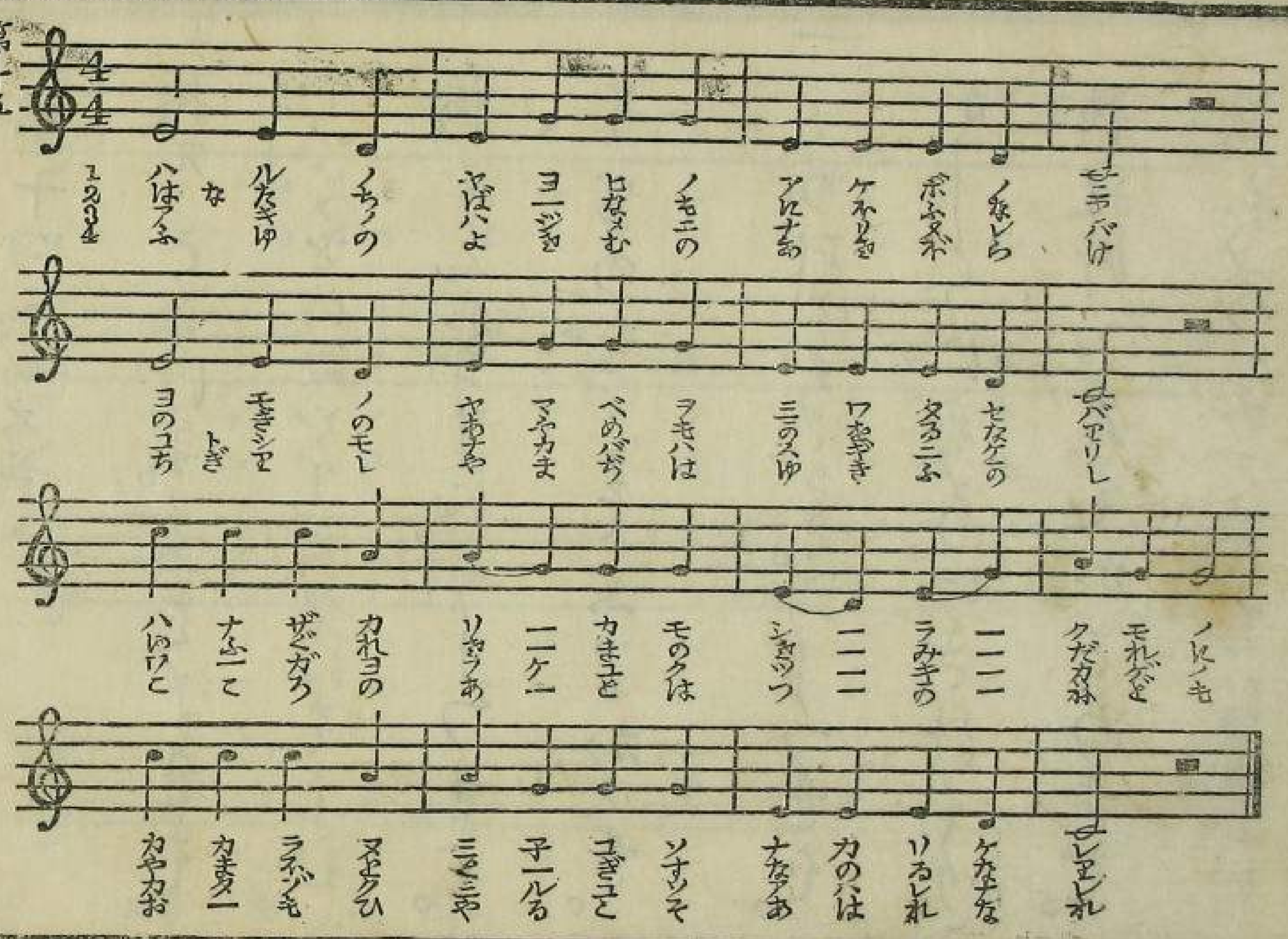
第十五　春のやよひ

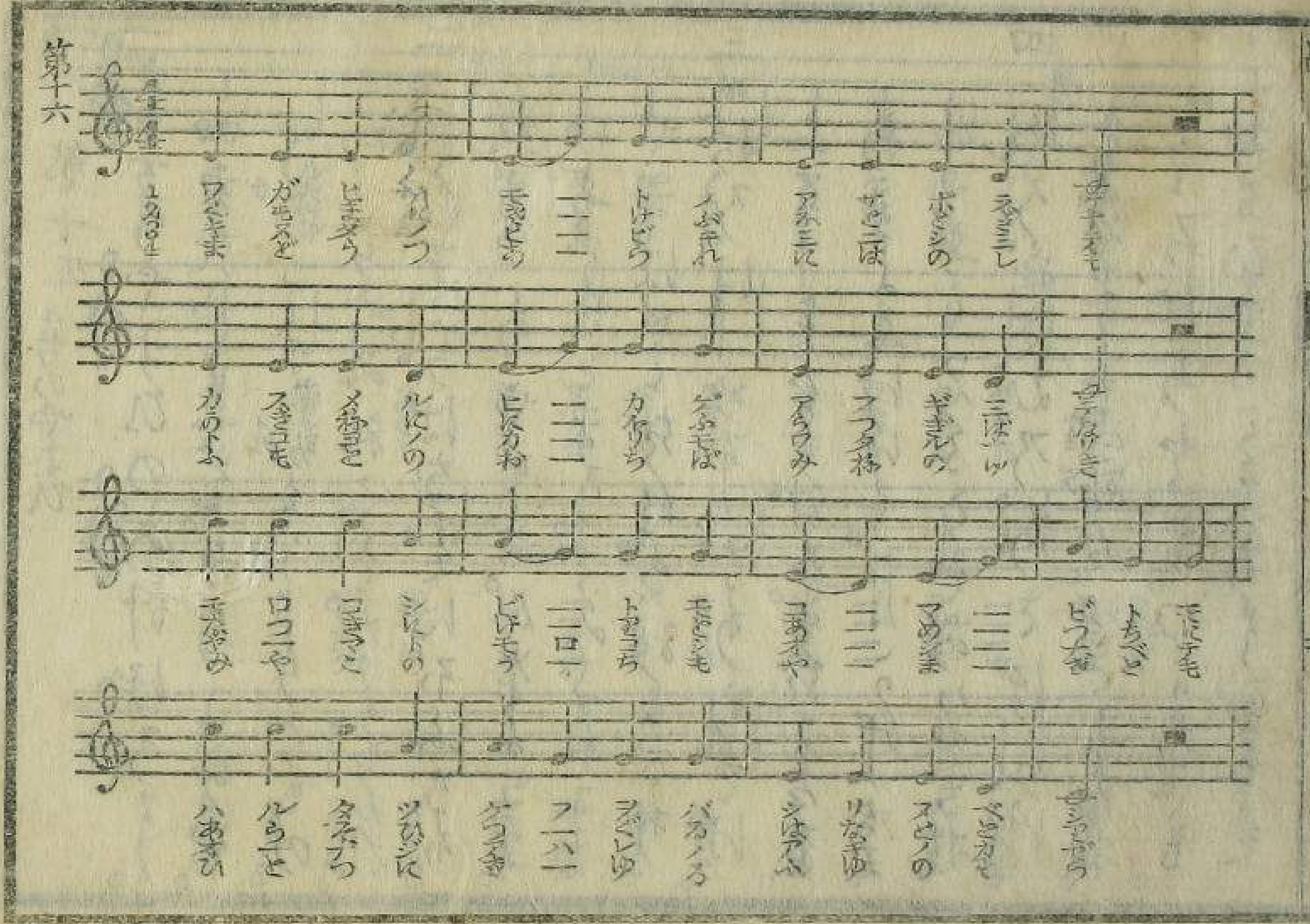
一　春のやよひの。あけぼのに。
四方のやまべを。見わたせば。
花ざかりかも。しら雲の。
かからぬ峰こそ。なかりけれ。

二　花たちばなも。にほふなり。
軒のあやめも。かをるなり。
夕ぐれさまの。さみだれに。
やまほととぎす。なのるなり。

三　秋の初めに。なりぬれば。
ことしもなかばは。すぎにけり。
わがよふけゆく。月かげの。
かたぶく見るこそ。あはれなれ。

四　冬の夜さむの。あさぼらけ。
ちぎりし山路は。雪ふかし。
こころのあとは。つかねども。
おもひやるこそ。あはれなれ。





第十六　わが日の本

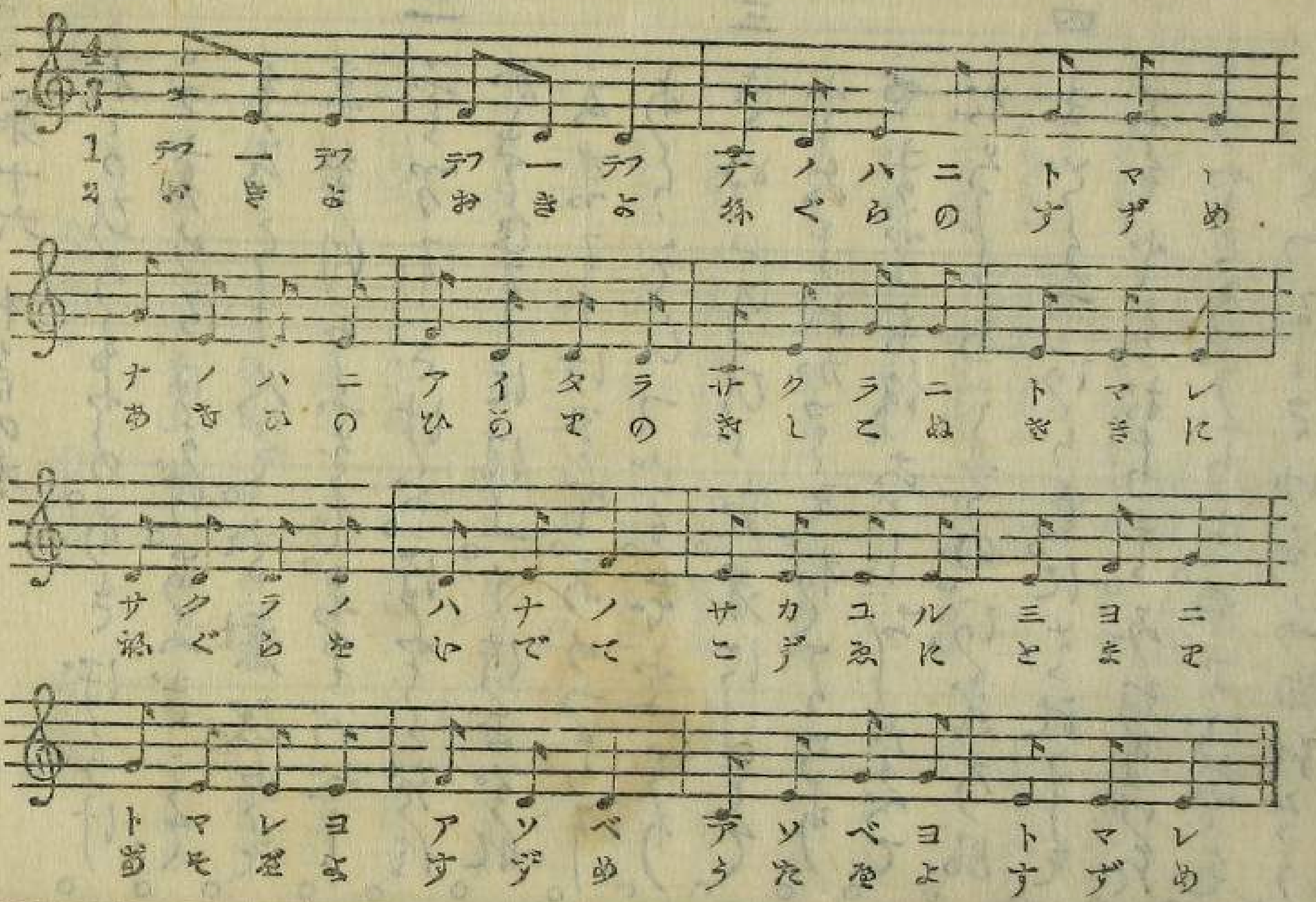
一
わがひのもとの。あさぼらけ。
このすめる國の。あふぎこそて。
それみし人ぞ。言葉びゆるぞ。
萬世かはらぬぞ。忘るぬべし。

二
雲井にさけぶ。ほめうたは。
かきつばたに。にほふ。うたぶれれ。
夜来りけるや。あめつちり。

三
あらそひつゞく。花やとり。
きぬさるひびえ。芽にしこそ。
やまよれかるぞ。わするちり。
やまいも錦なし。おしなべて。

四
おろじあさやの。にしきの風。
まどひつゝらさ。にきれしぞ。
ふそやちおちぢ。みねのゆえ。
みやこならむそ。やまびゆるぞ。
ひとつりさゆる。ふむれそう。

第十七



第十七　蝶々

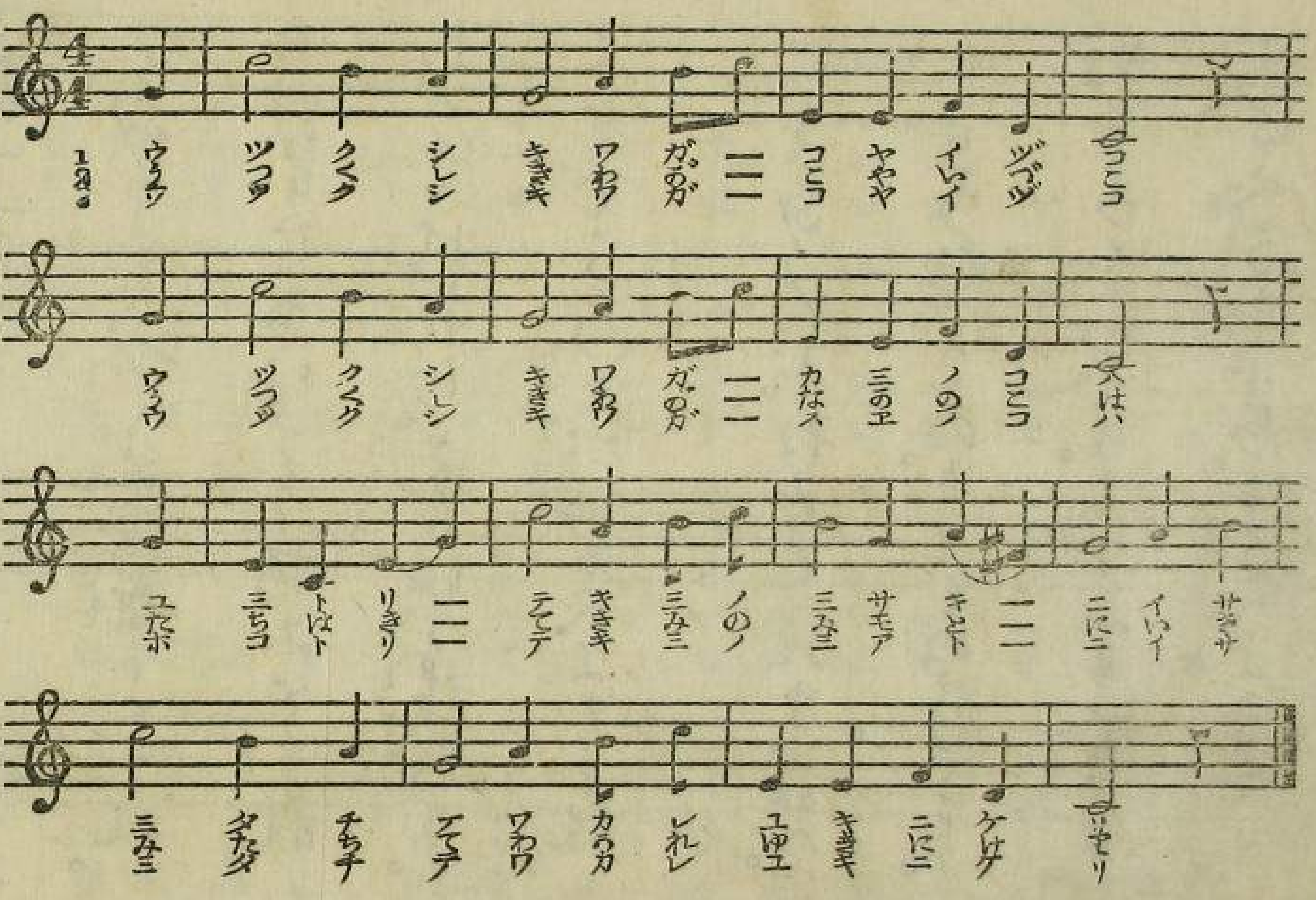
一

てふてふ　てふてふ。菜の葉にとまれ。
なのはにあいたら。櫻にとまれ。
さくらの花の。さかゆる御代に。
とまれよ　あそべ。あそべよ　とまれ。

二

おきよ　おきよ。ねぐらのすゞめ。
朝日のひかりの。さしこぬさきに。
ねぐらをいでゝ。こずゑにとまり。
あそべよ　すゞめ。うたへよ　すゞめ。

第十八



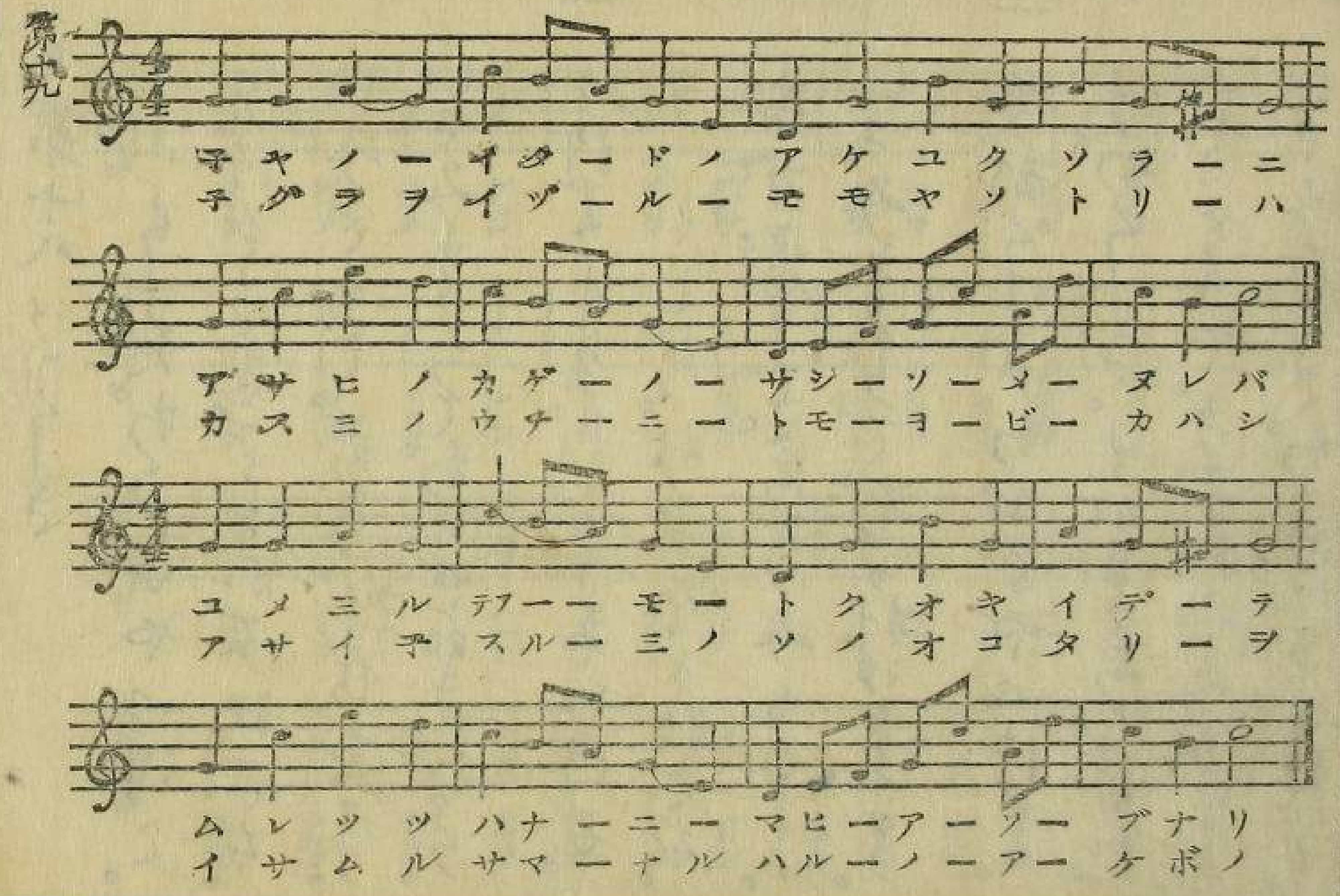
第十八 うつくしき

一
うつくしき。わが子やいづこ。
うるはしき。つまがかみの子ら。
ゆみとりて。君のみさきに。
いさみたちて。わかれゆきにけり。

二
うつくしき。わがのこやいづこ。
うつくしき。わがなれし子ら。
太刀帶て。君のみもとに。
いさみたちて。わかれゆきけり。

三
うつくしき。わがてやいづこ。
うつくしき。つまがまろてハ。
ほことりて。きみのみあとに。
いさみたちて。わかれゆきにけり。

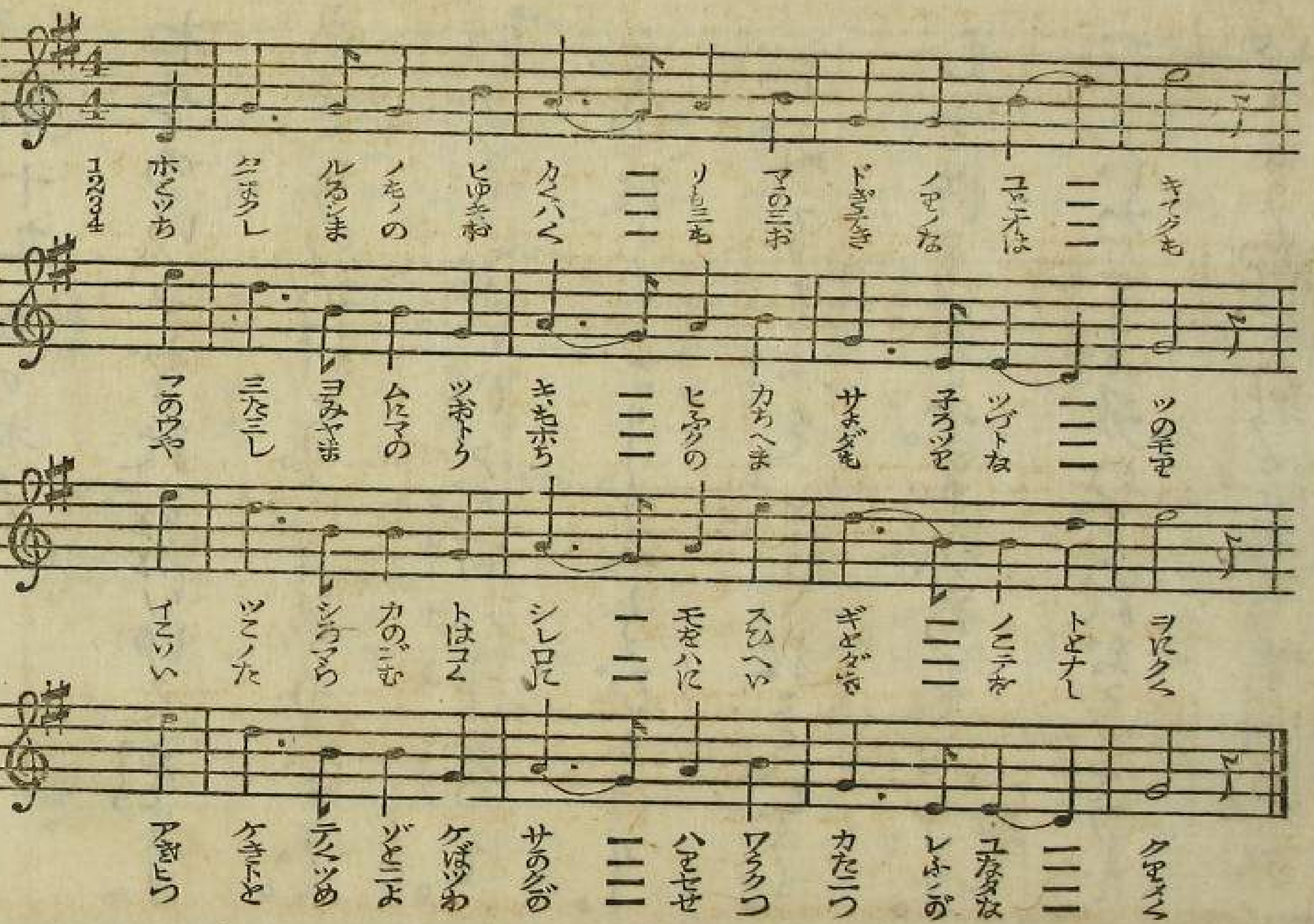
第十九



第十九　閨(ねや)の板戸(いたど)

ねやのいたどのあけゆく空(そら)に。
あさひのかげのさしそめぬれば。
ねぐらをいづる百八十鳥(ももやそとり)も。
霞(かすみ)のうちに友よびかはし。
夢(ゆめ)みるてふもとくおきいでゝ。
むれつゝ花にまひあそぶなり。
あさいねする身のそのおこたりを。
いさむるさまなる春のあけぼの。

第二十



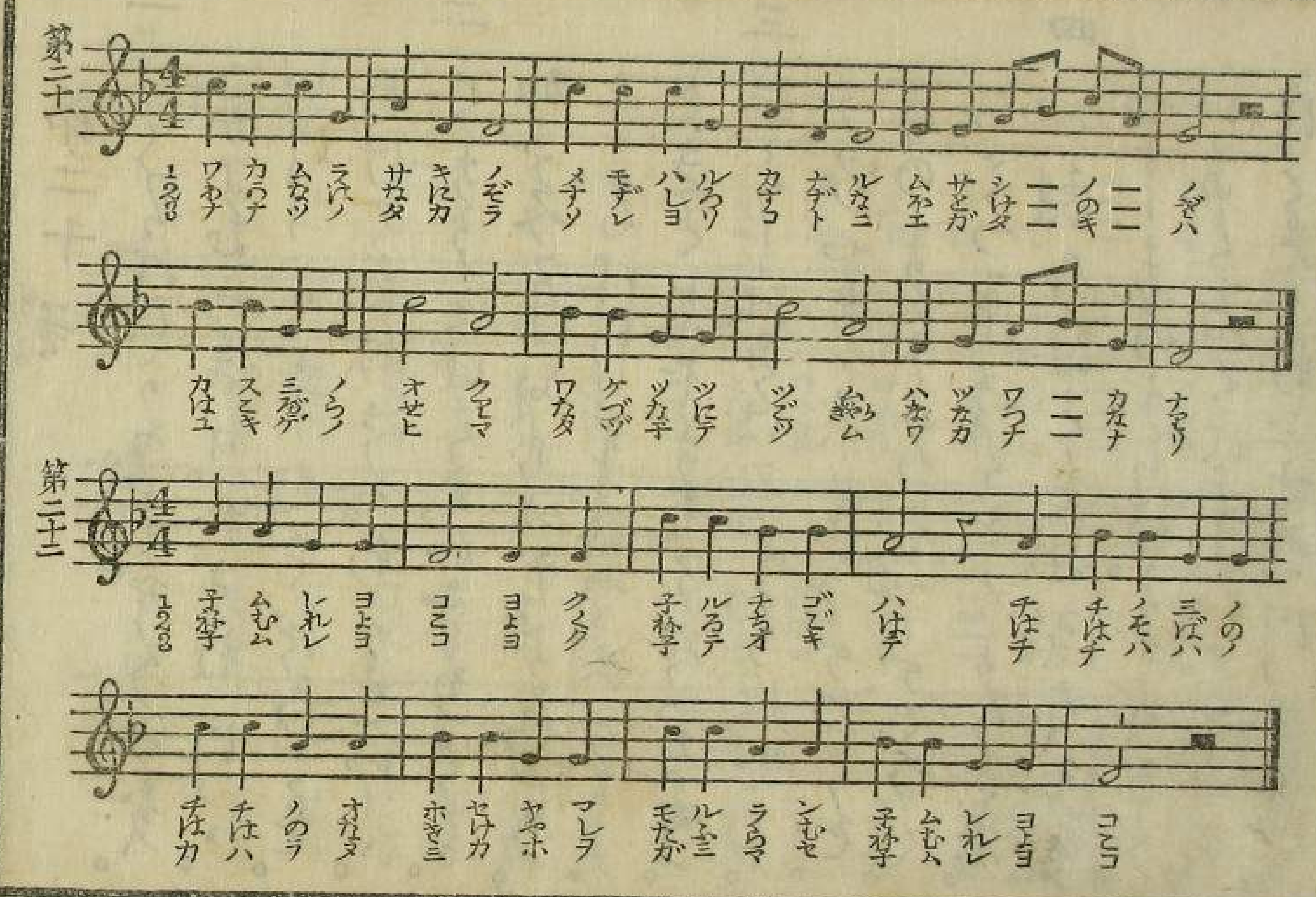
第二十　螢

一
ほたるのひかり。まどのゆき。
書よむつき日。かさねつゝ。
いつしか年も。すぎのとを。
あけてぞけさは。わかれゆく。

二
とまるもゆくも。かぎりとて。
かたみにおもふ。ちよろづの。
こゝろのはしを。ひとことに。
さきくとばかり。うたふなり。

三
つくしのきはみ。みちのおく。
うみやまとほく。へだつとも。
そのまごゝろは。へだてなく。
ひとつにつくせ。くにのため。

四
千島のおくも。おきなはも。
やしまのうちの。まもりなり。
いたらんくにに。いさをしく。
つとめよわがせ。つゝがなく。



第二十一　若紫

一　わかむらさきの。めもはるかすみたる武蔵野の。
このもかのもに。わけつゝつむ。初若菜。

二　若菜ハなにぞ。すゞしろすゞな。ほとけの座。
はこべらせり。なづなよ五行なづな。

三　なゝつの数それよりこゝに得てのちハ。
雪げのひまを尋ねてつむ。わかのなり。

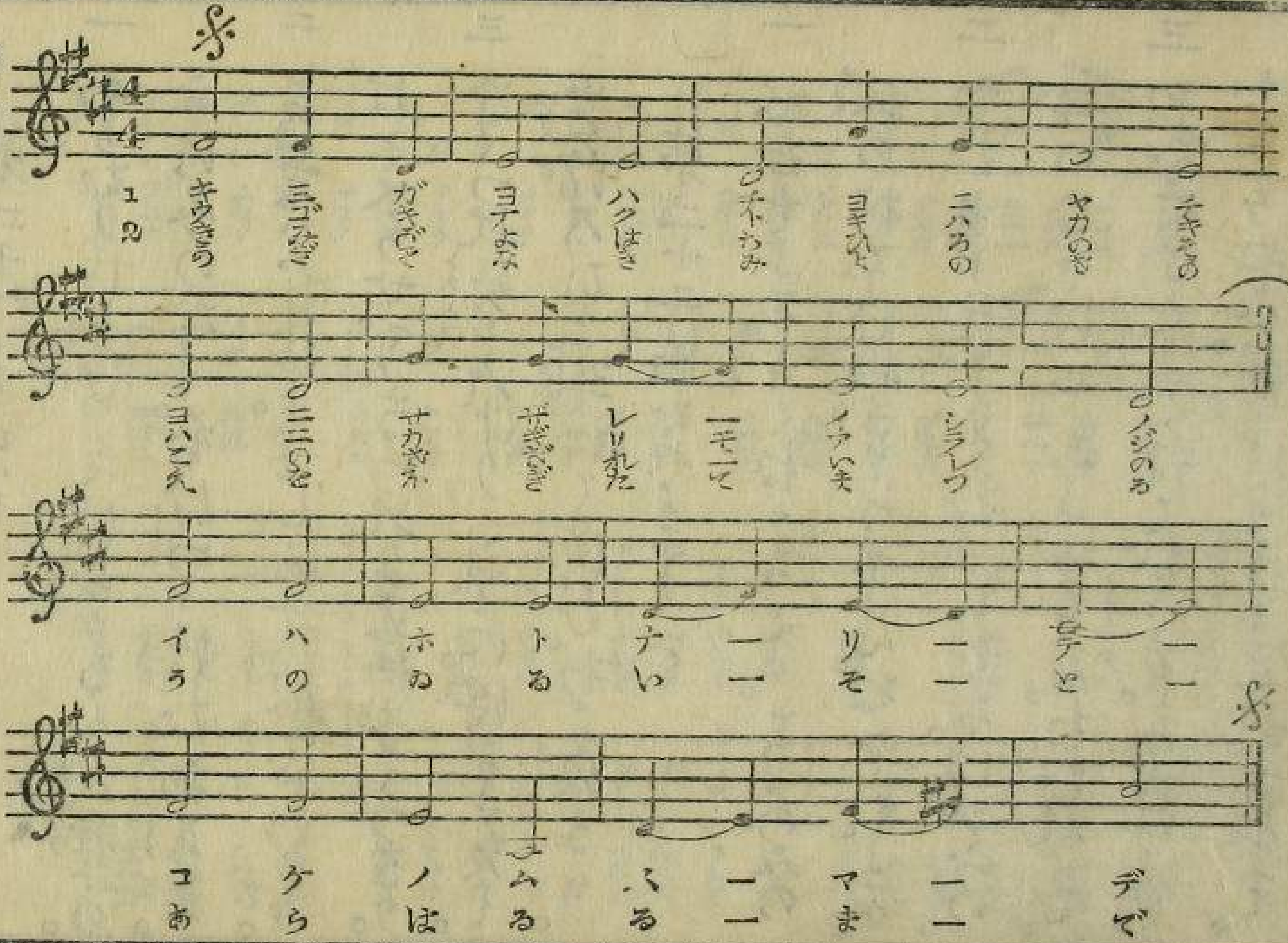
第二十二　ねむれよ子

一　ねむれよ子。よくねるちごハ。ちゝのみの
父のおほせや。ほめたまはん。ねむれよ子。

二　ねむれよ子。よくねるちごぞ。はやそだつの。
母のなさけや。あやすらん。ねむれよて。

三　ねむれよ子。よくねておきて。ちゝはゝの
かはらぬ顔。をさなごゝろを。ねむれよて。

第二十三



第二十三 君が代

君が代は。ちよにやちよに。さゞれいしの。巖となりて。こけのむすまで。うごきなく。常磐かきはに。かぎりもあらじ。

二 きみがよは。ちひろの底の。さゞれいしの。鵜のゐる磯と。あらはるゝまで。かぎりなき。みよの榮を。ほぎたてまつらむ。

小學唱歌集 初編 十七 音樂取調掛

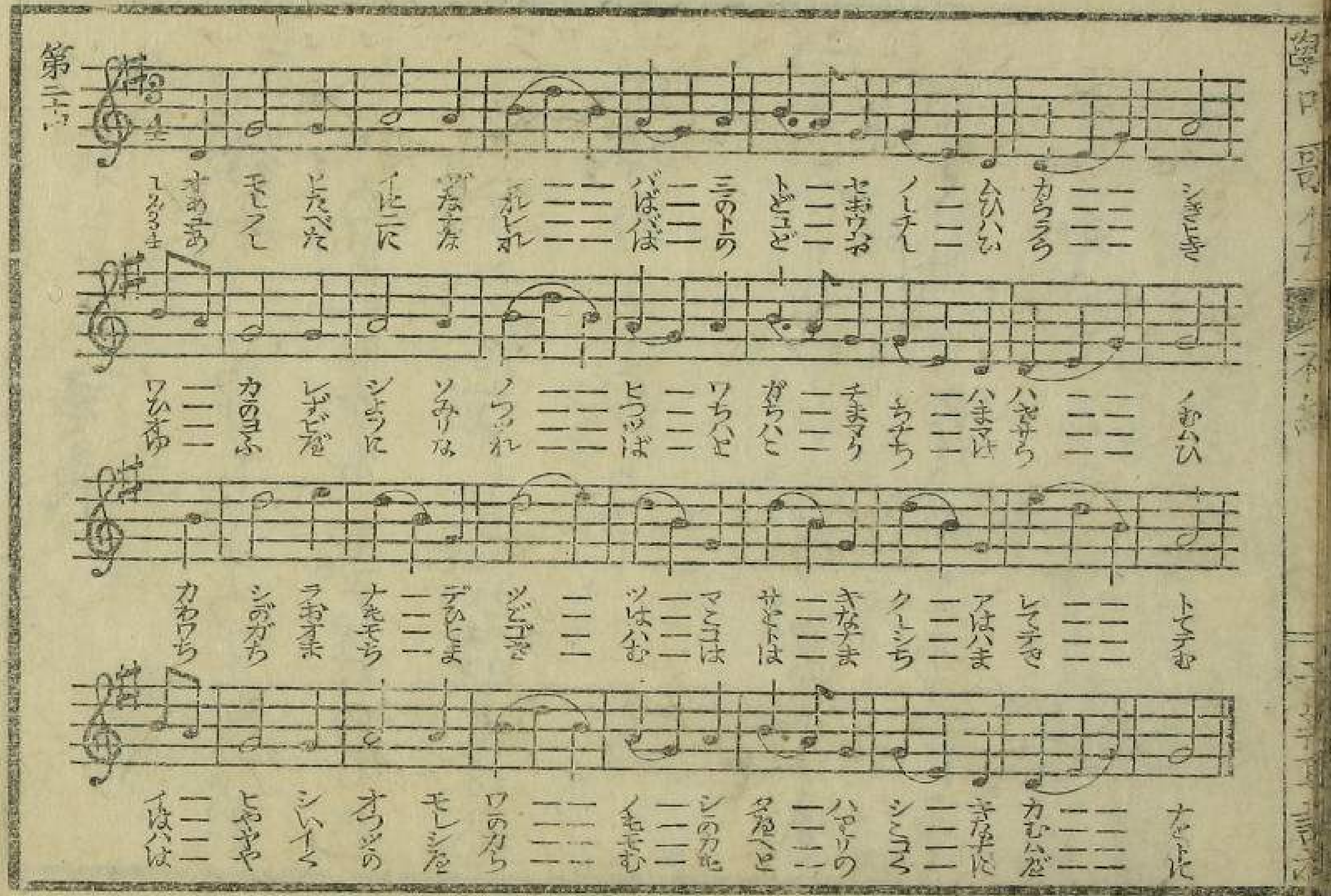
第二十四 思ひいづれば

一
おもひいづれば。三年(みとせ)のむかし。
わかれしその日。わがちゝはゝの。
かしらなでつゝ。まさきくあれと。
いひしおもわの。しはさかえよ。

二
あしたまなべば。かゞわしひらき。
日数(ひかず)よみつゝ。ちゝまちまさむ。
わがおもひでは。おとちりそく。
はやいつとせ。このへまなれんと。

三
ゆふべふかすまでぞ。家(いへ)うちはらひ。
およびをりつゝ。母(はゝ)まちすらん。
わがおもひごろ。筆(ふで)とりいそく。
はやいつかぞ。このへまでちらんて。

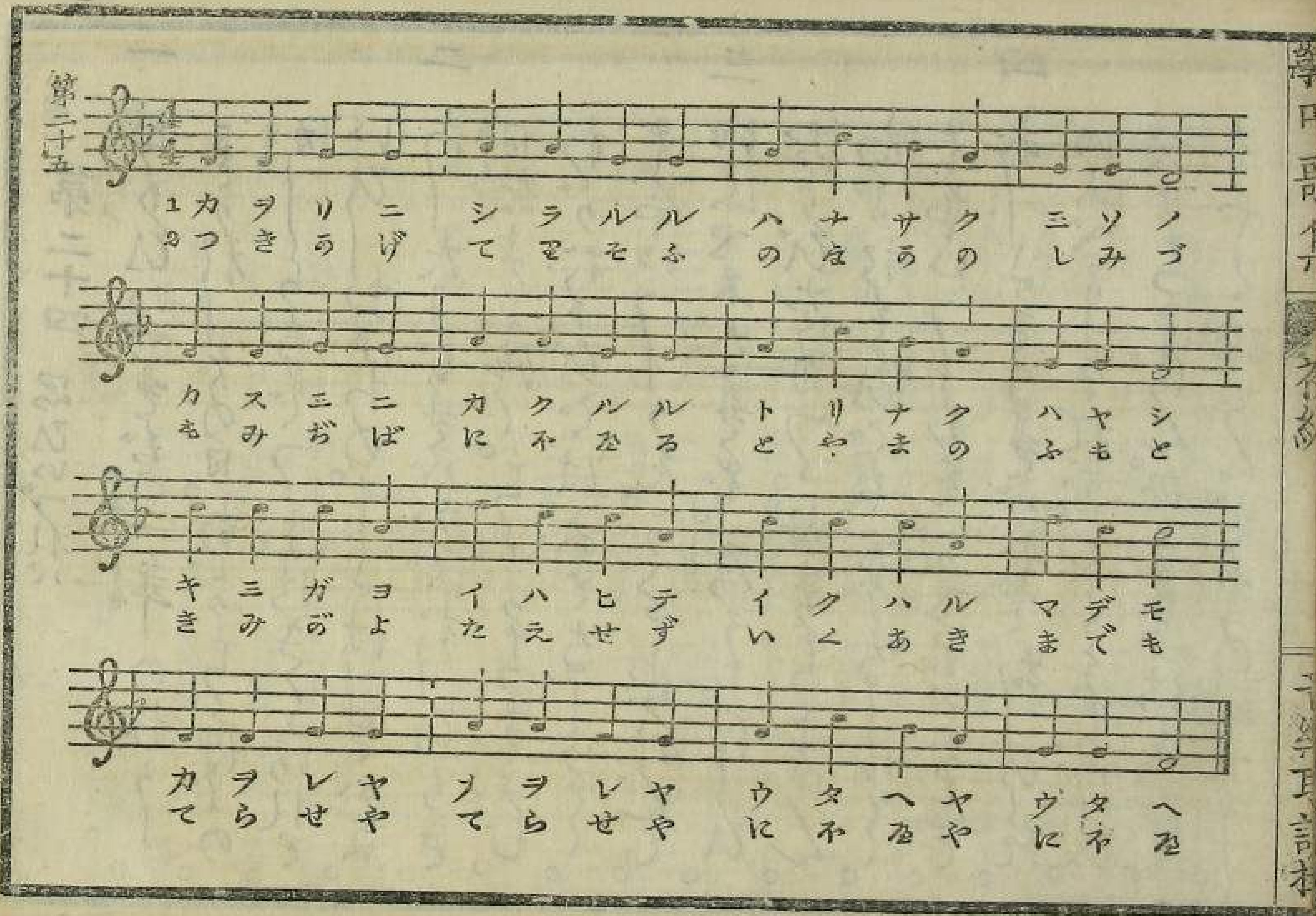
四
あしたゆふまきば。かゞやおしひれ。
ゆふべにしなれど。とくとくちりつひ。
父(ちゝ)まちまさん。母まちはもみ。
はやく帰(かへ)らん。そやの國(くに)べ。

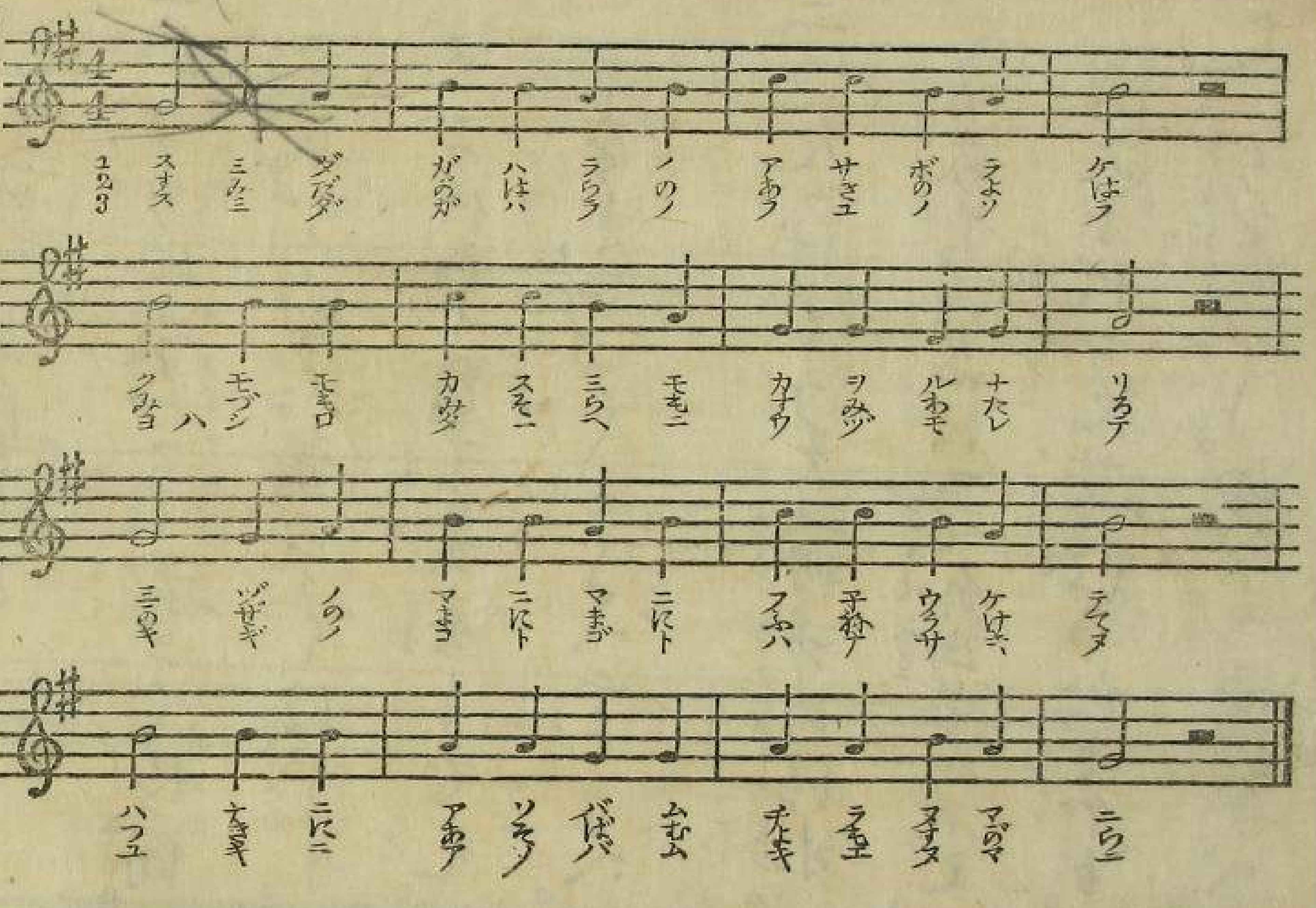


第二十五 薫りにしらるゝ

一 かをりにしらるゝ。花さく園。
霞にかくるゝ。鳥なくはやし。
君が代いはひて。幾春までも。
かをれや〳〵。うたへやうたへ。

二 つきかげてらそふ。野中の清水。
もみぢばにほへる。外山のふもと。
きみが代たえせず。いく秋までも。
てらせや〳〵。にほへやにほへ。





第二十六

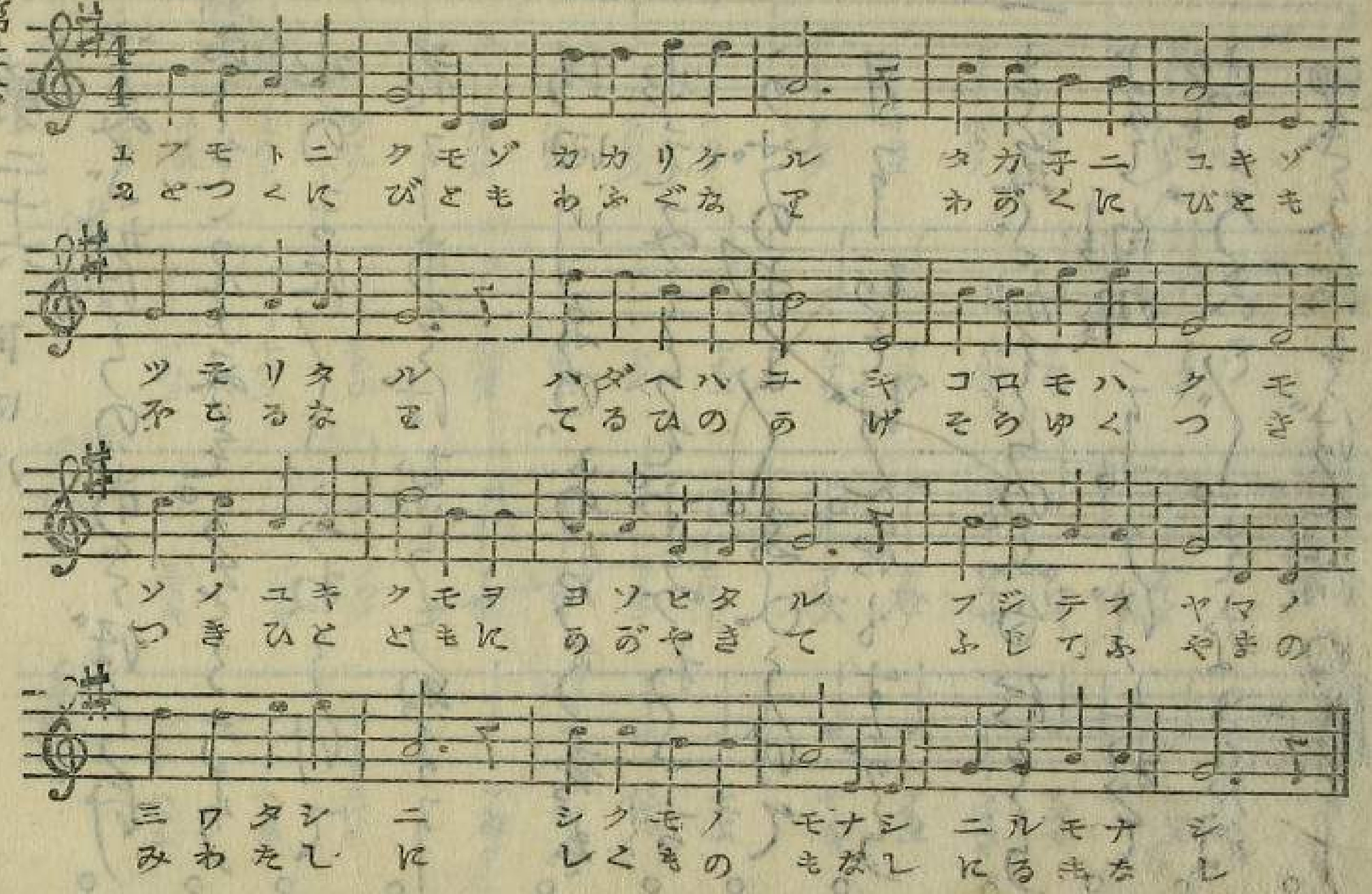
第二十六 隅田川

一 すみだがはらの。あさぼらけ。雲そこのすみぞ。のぼるなり。水のまに〳〵。ふねうけて。花にあそばむ。もろともに。

二 隅田川原の。あきの夜を。水にみそらぞ。すみわたる。このまに〳〵。ふねうけて。月にあそばん。夜もすがら。

三 すみだがはらの。ふゆげしき。よもは白妙(しろたへ)なり。うづもれて。木々(きぎ)のおもかげ。そなきそれぬ。ゆきまの河の。そばん。消(きえ)ぬまもなし。

第二十七

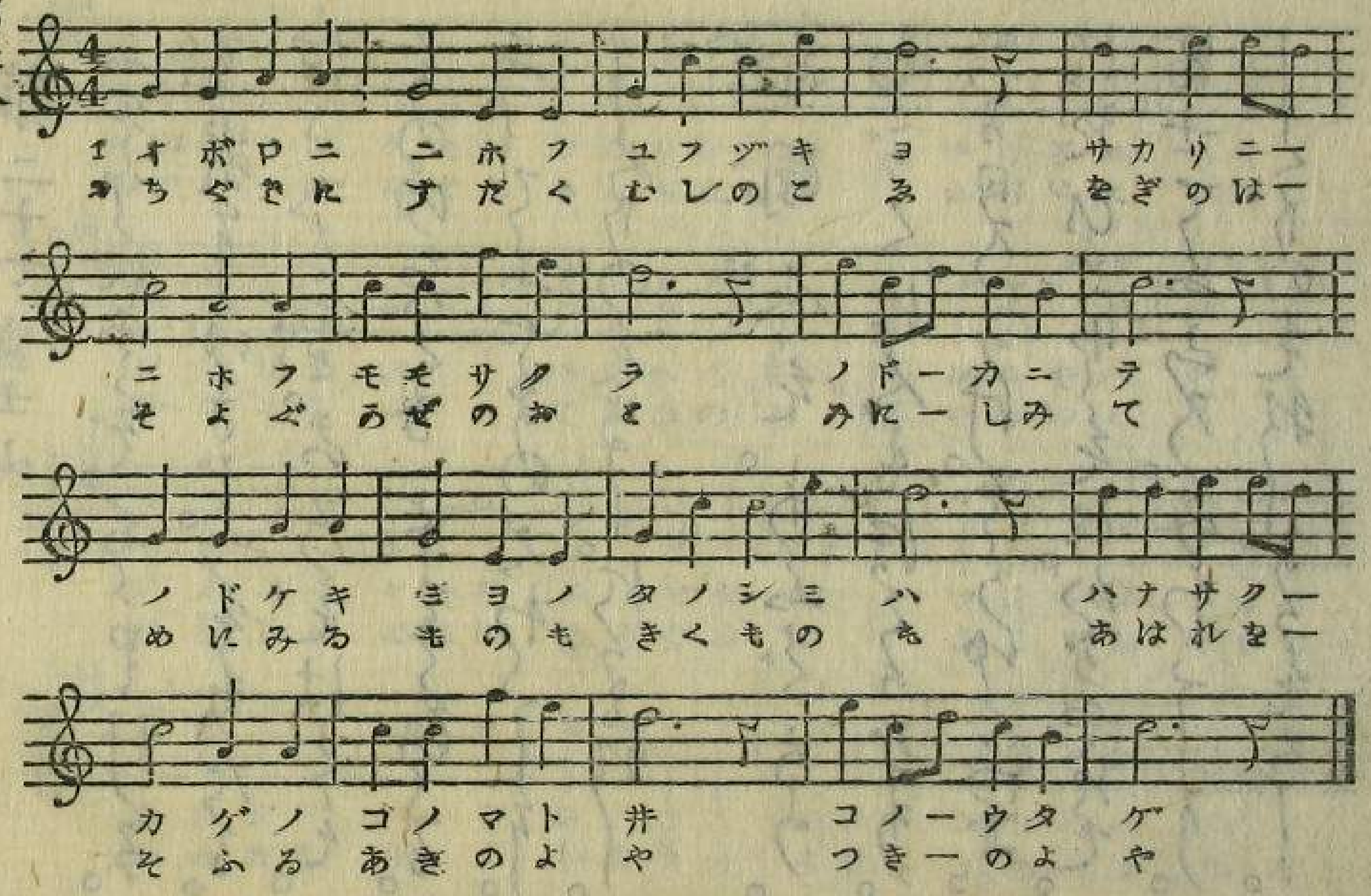


第二十七 富士山

一
ふもとにくもぞ。かゝりける。
高嶺にゆきぞ。つもりたる。
はだへは雪。ころもはくも。
そのゆきくもを。よそひたる。
ふじてふやまの。みわたしに。
しくものもなし。にるもなし。

二
外國人も。あふぐなり。
わがくに人も。ほこるなれ。
照る日のかげ。そらゆくつき。
清きひかりに。かゞやきて。
富士てふ山の。みわたしに。
しくものもなし。にるもなし。

第二十八

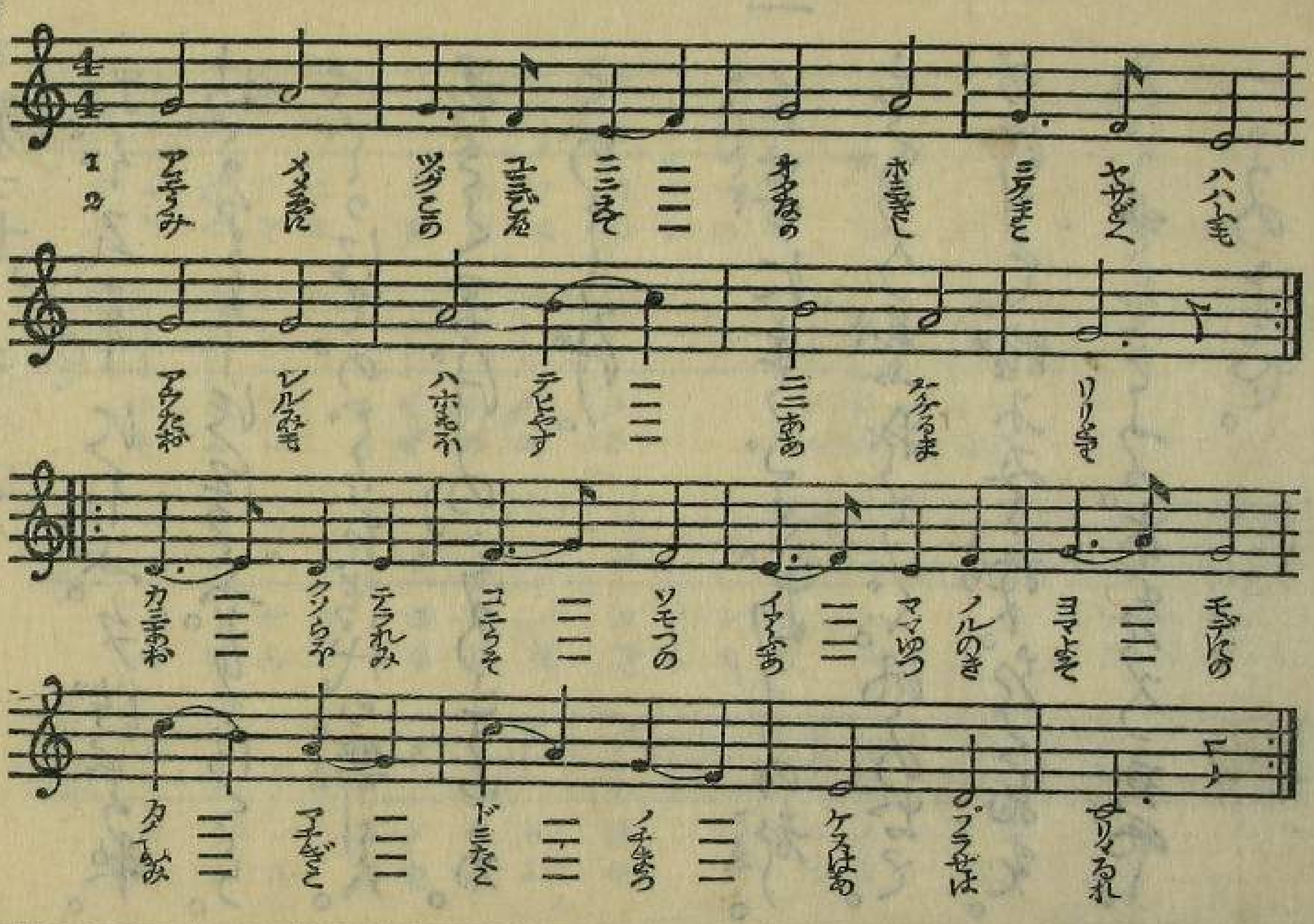


第二十八 おぼろ

一 おぼろににほふ。夕づき夜。さかりににほふ。もゝさくら。のどかにて。のどけき代の樂しみは。花さくかげの。このまとゐ。このうたげ。

二 ち草にすだく。むしの聲。をぎの葉そよぐ。風のおと。身にしみて。眼にみるものも。きくものも。あはれをそふる。あきの夜や。つきのよや。

第二十九



第二十九　雨露（あめつゆ）

一

雨露に。おかされてや。はなもさけてみのるらめ。

みめぐみに。民草（たみくさ）ハ。うるほひにけり。

かくてこそ。今の世ぞ。かくぞのどかなり。

みやこにも。ひなにまで。たちみちぬらめ。

二

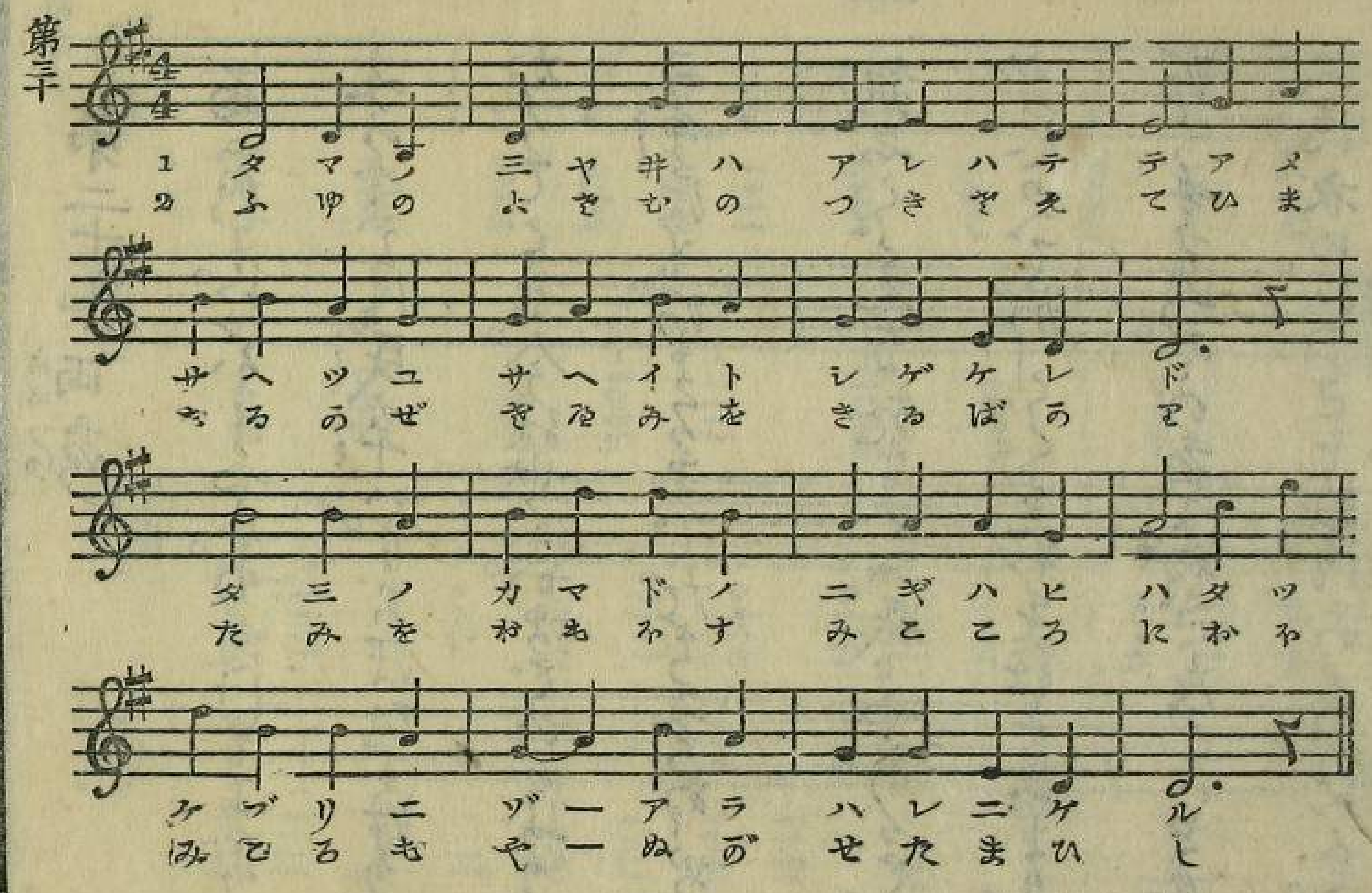
飢（う）ゑこゞえず。たるかぎりぞ。民をやすむるぞ。

身にのへて。かしこくも。おそほきあまり。

ひらきつゝみの。衣ぬぎこたまハやる。

大御衣（おほみそ）の。たつきその。清きあつかりそ。

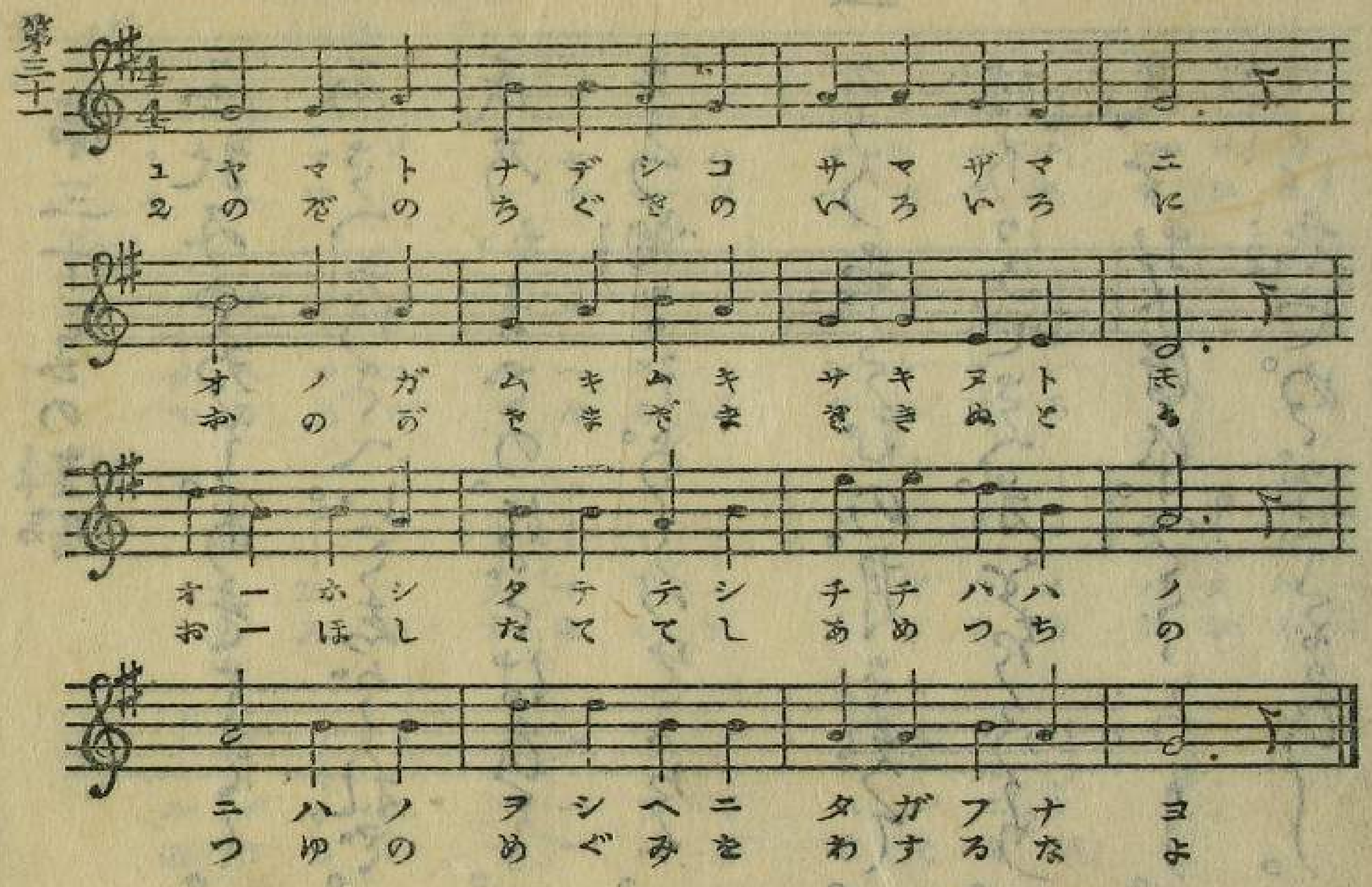
第三十



第三十　玉の宮居（みやゐ）

一 玉津みや居はあれはてて。
雨さへ露さへいとしげけれど。
民乃かまどのにぎはひは。
たつ烟（けむり）にぞあらはれにける。

二 冬乃夜さむの月さえて。
隙（ひま）もるかぜさへ身をきるばかり。
民をおもはす御こころに。
大御衣（おほみころも）やぬがせたまひし。

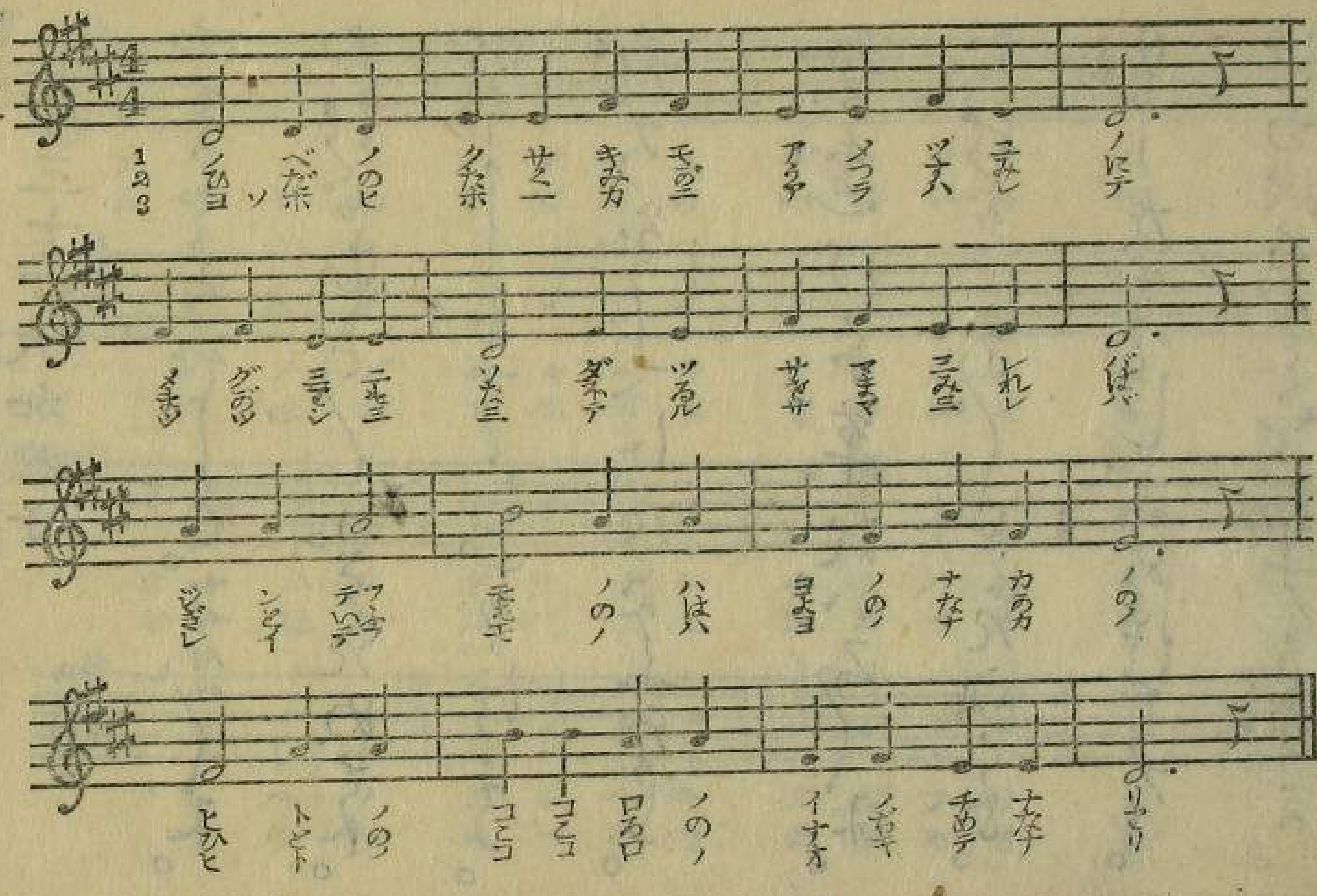


第三十一 大和撫子(やまとなでしこ)

やまとなでしこ。さまざまに。
おのがむき〳〵。さきぬとも。
おほしたてゝし。ちゝはゝの。
庭(には)のをしへに。たがふなよ。

一 野辺(のべ)の千草の。いろ〳〵に。
おのがさま〴〵。さきぬとも。
生(おほ)したてゝし。あめつちの。
つゆのめぐみを。わするなよ。

第三十二



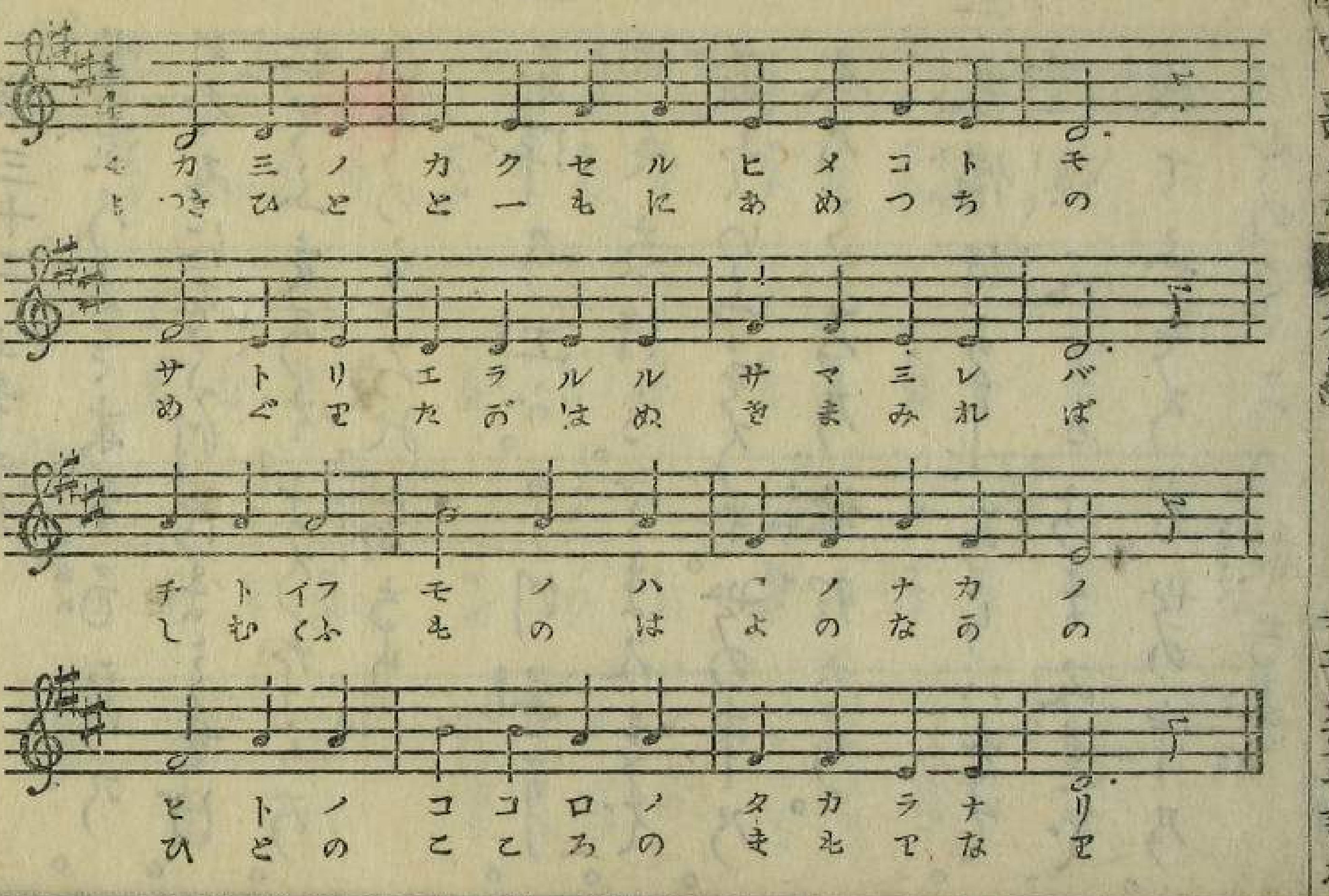
第三十二　五常の歌

一　野邉乃くさきも。雨露乃。めぐみにそだつ。さまみれば。仁てふものは。よろつなゝの乃。ひとのこころの。命なり。

二　飛彈乃工が。うつ川墨なり。曲をなほる。さまみきぞ。義といふものも。世の中乃。人のこころ乃。條理なり。

三　粧儀ほどのあり。あらはれて。謹慎みてる。けぢめみきぞ。禮てふものも。世の中乃。ひとのこころの。掟なり。

同續き

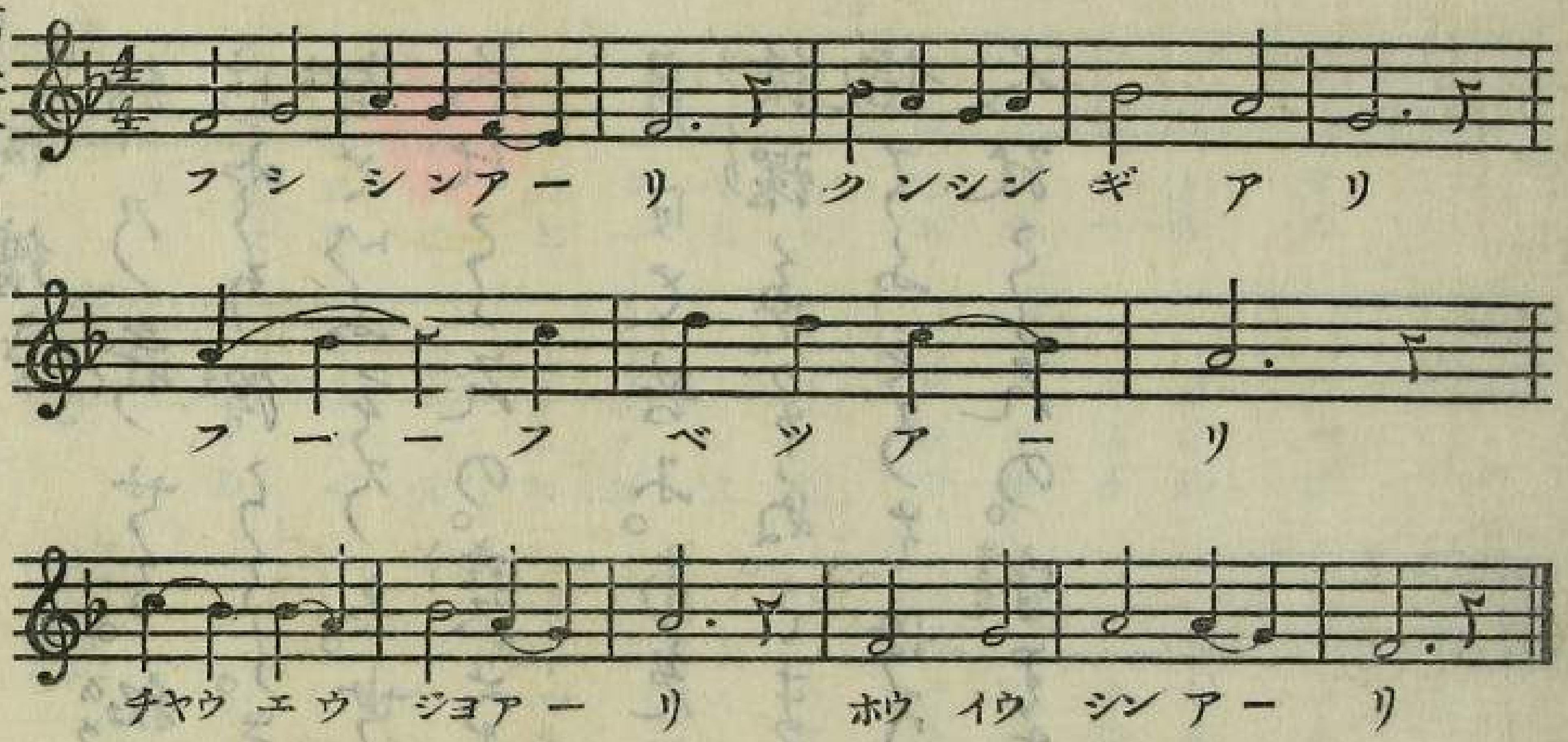


同續き

四 知乃彌せる。秘事ぞ。はかり得らるゝ。さまみれど。智といふものぞ。世の中の。人のこゝろの。寶なり。

五 月日と共ふ。あめつちの。循環めぐりのつきぬ。さまみるぞ。信てふものぞ。世乃中乃。人のこゝろの。守なり。

第三十三



第三十三 五倫の歌

父子親あり。君臣義あり。
夫婦別あり。長幼序あり。
朋友信あり。

明治十四年十一月廿四日出版版權届
同　十八年五月三板
文部省藏版

定價金八錢

音樂問答　全一册　定價金三拾七錢

樂典　全一册　定價金壹圓拾五錢

音樂指南　全一册　定價金四拾八錢

小學唱歌集　全三册　定價金二拾九錢九厘

唱歌掛圖　全二編
初篇定價金貳圓四十四錢
續篇定價金壹圓五十錢
二篇定價金貳圓廿壹錢